

福島県書写書道教育研究会 60年記念事業

# 分かる できる

## 「これからの書写指導」



福島県書写書道教育研究会

# 目 次

## 1 はじめに

## 2 学習指導要領改訂について

- (1) 学習指導要領改訂の基本的な考え方
- (2) 教育内容に関する主な改善事項と国語科書写とのかかわり
- (3) 国語科(書写)の改善の基本方針
- (4) 書写の改善の具体的事項
  - 小学校
  - 中学校

## 3 これからの書写指導について

- (1) 書写の学習が目ざすもの
- (2) 「基準」と「原理・原則」について
- (3) 何のために毛筆による学習を行うのか～硬筆と毛筆の関連指導
- (4) 硬筆と毛筆の関連指導とは
  - 授業における関連指導
  - 筆使いにおける関連指導
  - 指導内容における関連指導
- (5) 書写の基本的な学習の進め方
- (6) 評価について
  - 書道的・作品的見方から学習の基準に基づいた形成的評価へ
  - 相対的評価から個人内評価へ(揭示の工夫)

## 4 書写の原理・原則～文字のきまり～

- (1) 字形(概形)
- (2) 文字の中心
- (3) 点画の長短
- (4) 画と画の間(画間)
- (5) 点画の方向
- (6) 点画の接し方
- (7) 点画の交わり方
- (8) 組み立て
- (9) 筆順
- (10) 文字の大きさ
- (11) 配列(字配り)

## 5 書写指導のポイント

- (1) 入門期の指導
  - 正しい姿勢
  - 鉛筆の持ち方1(実践編)
  - 鉛筆の持ち方2(理論編)
  - さまざまな筆記具
  - 文字に対する興味関心を高めるための工夫
  - 入門期における毛筆指導のポイント

(2) 基本点画の書きかた  
基本的な点画と筆使い

横画	右上払い
縦画	点
折れ	そり
左払い	曲がり
右払い	ひらがな

(3) 指導法の工夫

自己批正  
拡大・分解文字（可動式）  
名前の書き方  
色別シール  
練習用紙（硬筆）  
練習用紙（毛筆）

(4) 中学校における指導（行書）

行書の特徴  
基本点画の書き方  
点画の変化  
点画の連続  
点画の省略  
筆順の変化

## 6 授業の実際

- (1) 小学校第2学年 「文字の形」
- (2) 小学校第3学年 「まがりとおれ（ビル）」
- (3) 小学校第6学年 「文字の大きさ（白い雲）」
- (4) 中学校第2学年 「行書の特徴を生かして書こう（読書）」

あとがき（監修・編集委員，参考文献）



指導のポイントや基本点画の書き方の動画が見られます  
<http://www.kyouikukaikan.jp>  
「福島県書きぞめ展」課題学習の手引動画配信ページ  
「基本編」へアクセスしてね！

## 1 はじめに

平成20年3月、学習指導要領が改訂され、国語科書写においても指導内容が大きく変わった。

現在、コンピュータや携帯電話の普及により、手書きの文字を書く機会が減ってきている。また、若者の言葉づかいの乱れとともに、文字の乱れが問題となっている。さらに、活字中心の生活のため文字に対する感覚が薄れてきている。

このような現状に対して、学校教育の現場では、学習指導要領で必修でありながら、書写の時間をどのように指導したらよいか分からないという声も聞かれる。また、依然として「習字」的な授業が学校現場では行われている。そのような中で書写教育の重要性が増し、指導の充実が必要となってきた。

そこで、福島県書写書道教育研究会では学習指導要領改訂にあわせて、学校教育の現場の指導者がすぐに使える資料として、本書を企画した。

## 2 学習指導要領改訂について

### (1) 学習指導要領改訂の基本的な考え方

文部科学省では、平成20年3月28日に学校教育法施行規則の一部改正と学校学習指導要領の改訂を行った。

今回の改訂は、約60年ぶりに改正された教育基本法や学校教育法等に基づき、平成20年1月の中央教育審議会答申を踏まえ、次の3つを基本的なねらいとして行われた。

教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること

道徳教育や体育などの充実により、豊かな心と健やかな体を育成すること

このように、新学習指導要領では、「知識基盤社会」の時代における「生きる力」の育成がより一層明確に示された。

今回の改訂では、改正教育基本法で示された教育の基本理念を踏まえるとともに、現在の児童・生徒の課題への対応の視点から次の6つがポイントとしてあげられた。

「生きる力」という理念の共有

基礎的・基本的な知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

確かな学力を確立するために必要な授業時数等の確保

学習意欲の向上や学習習慣の確立

豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

この中で特に を基盤とした 、 及び が重要だとされている。

### (2) 教育内容に関する主な改善事項と国語科書写とのかかわり

言語活動の充実

子どもたちの思考力・判断力・表現力をはぐくむためには、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動を各教科で行い、言語の能力を高める必要があるとし、子どもたちが他者や社会とかがかわる上でも必要な力であると、位置付けている。

伝統や文化に関する教育の充実

グローバル化の中で、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々との共存のため、自らの国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることが重要になっているとしている。

### (3) 国語科(書写)の改善の基本方針

**言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。**

特に、言葉を通して的確に理解し、**論理的に思考する表現する力、互いの立場や考え方を尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること**や、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことを重視する。

現行の「言語事項」の内容うち各領域の内容に関連の深いものについては、実際の言語活動において一層有機的にはたらくよう、それぞれの領域の内容に位置付けるとともに、必要に応じてまとめて取り上げるようにする。

「言語文化と国語の特質に関する事項」を設け、我が国の言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の役割や特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりする。

### (4) 書写の改善の具体的事項

#### 【小学校】

書写の指導については、手紙を書いたり記録をとったりするなどの**実際の日常生活や学習活動に役立つよう**、内容や指導の在り方の改善を図る。

今回の改訂で国語科は、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」「C 読むこと」の3領域に加えて「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設された。今まで書写の時間は「言語事項」に位置付けられてきたが、今回の改訂から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(2)に位置付けられた。

「文字を書く基礎となる『姿勢』、『筆記具の持ち方』、『点画や一文字の書き方』、『筆順』などの事項から、『文字の集まり(文字群)の書き方』に関する事項へ、さらに、『目的に応じた書き方』に関する事項へと系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる」とされ、文字に関する基礎的基本的学習内容と並行して日常使われる書式の学習を積極的に取り上げることが必要になってくるのである。このことは、書写の学習が、国語科だけでなく、他教科や総合的な学習の時間における学習の基盤となることを表してい

ると考えられる。

各学年における書写に関する事項（下線部は新しくなった内容）

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
<p>ア 姿勢や<u>筆記具</u>の持ち方を正しくし、<u>文字の形に注意しながら</u>、丁寧に書くこと</p> <p>イ 点画の長短や<u>方向</u>、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと</p>	<p>ア 文字の組み立て方を<u>理解し</u>、形を整えて書くこと</p> <p>イ <u>漢字や仮名の</u>大きさ、配列に注意して書くこと</p> <p>ウ <u>点画の種類を理解するとともに</u>、毛筆を使用して<u>筆圧</u>などに注意して書くこと</p>	<p>ア <u>用紙全体との関係に注意し</u>、文字の大きさや配列などを<u>決めるとともに</u>、<u>書く速さを意識して書くこと</u></p> <p>イ <u>目的に応じて使用する筆記具を選び</u>、<u>その特徴を生かして書くこと</u></p> <p>ウ 毛筆を使用して、<u>穂先の動きと点画のつながりを意識して</u>書くこと</p>

第1学年及び第2学年

「筆記具」は、低学年では、鉛筆やフェルトペンを使用する

「文字の形」とは、主として文字の概形（おおよその形）のことである。

第3学年及び第4学年

「筆圧」とは、筆記具から用紙に加わる力のことである。筆圧は点画の種類を理解することと呼応しており、点画の書き方と筆圧とを関連づけることを重視し指導する必要がある。

第5学年及び第6学年

「用紙全体との関係に注意し」とは、原稿用紙、半紙、画用紙や模造紙などの白紙に始まり、それらに準ずる布や金属、ガラスなどといった用材全般との関係から判断し、文字の大きさや字配りを決めることである。

「書く速さを意識して」とは、書く場面の状況によって速さが決まってくることを意識することである。

「目的に応じて」の「目的」は、生活や学習活動において文字を書く様々な場面における目的のことである。

「筆記具を選び」の「筆記具」は、鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなどから選択することが考えられる。

「その特徴を生かして」の「特徴」は、筆記具全体の形状、書く部分の材質や形状、色などである。

「穂先の動き」については、中学年で指導した点画の中での穂先の動きだけでなく、点画から点画へ、さらには、文字から文字へと移動していく過程に重点を置く。したがって、「穂先の動き」と「点画のつながり」とは、一体化した事項といえる。

## 【中学校】

書写の指導については、**社会生活に役立つことを引き続き重視するとともに、文字文化に親しむようにするため**、内容や指導の在り方の改善を図る。

領域については、小学校国語科に準ずる。

「小学校の指導を踏まえ、文字を書くことに関する知識・技能の育成が、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における、話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立つようにすることが大切である。また、我が国の伝統的な文字文化やこれからの社会に役立つ様々な文字文化に関する認識及びそれらに親しむ態度の育成も大切である」とされている。このことは特に第3学年において文字を文化として認識し意図を明確にして文字を書くことを示している。

今回の改訂では「文字文化に親しむ」という言葉が入ってきたことが特徴である。手書き文字だけではなく、活字やイラスト文字などの身の回りの多様な文字に関心をもたせることで、文字を手書きにすることの意義に気付かせるとともに、文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、高等学校芸術科書道への発展性も見通している。

このように、今回の改訂では、小学校、中学校、高等学校を見通し、それぞれを関連づけた内容となっている。

各学年における書写に関する事項（下線部は新しくなった内容）

第1学年	第2学年	第3学年
ア 字形を整え、文字の大きさ、 <b>配列など</b> について理解して、 <b>楷書で書くこと</b>	ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと	ア <b>身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと</b>
イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと	イ 目的や必要に応じて、 <b>楷書又は行書を選んで書くこと</b>	

### 第1学年

アは楷書に関する事項である。楷書で書かれた文字の形や大きさ・配列などに関して、小学校の指導を踏まえ、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における、話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立つ書写の能力を育成していくことに配慮する。

### 第2学年

「楷書又は行書を選んで書くこと」とは、学習や生活における様々な場面において、楷書で書いた方がよい場合と行書で書いた方がよい場合とがあることを踏まえ、習得した書体に関する知識や技能を目的や必要に応じて主体的に選択し、書くことである。

### 第3学年

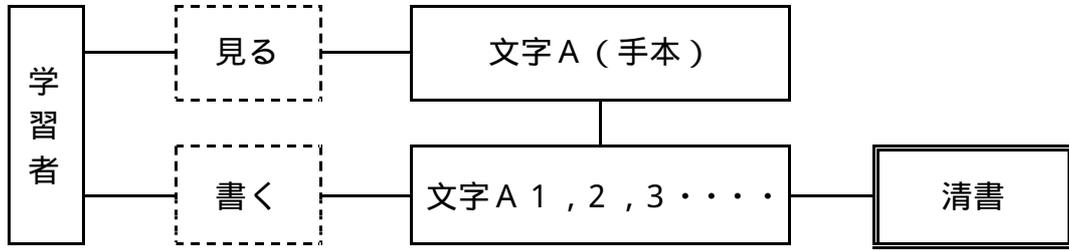
この事項は、自分の身の回りにある多様な文字に関心を持つことと、その関心に基づきながら第2学年までの学習を踏まえて表現効果を考えながら書くことを求めている。

### 3 これからの書写指導について

#### (1) 書写の学習が目ざすもの

次の図1は、書写の学習過程を示したものである。手本となる文字Aについて、それが上手に書けるようになるまで、1枚(A1)、2枚(A2)・・・と繰り返し練習を重ねる。そして、その出来不出来が評価の対象となる。

図 1



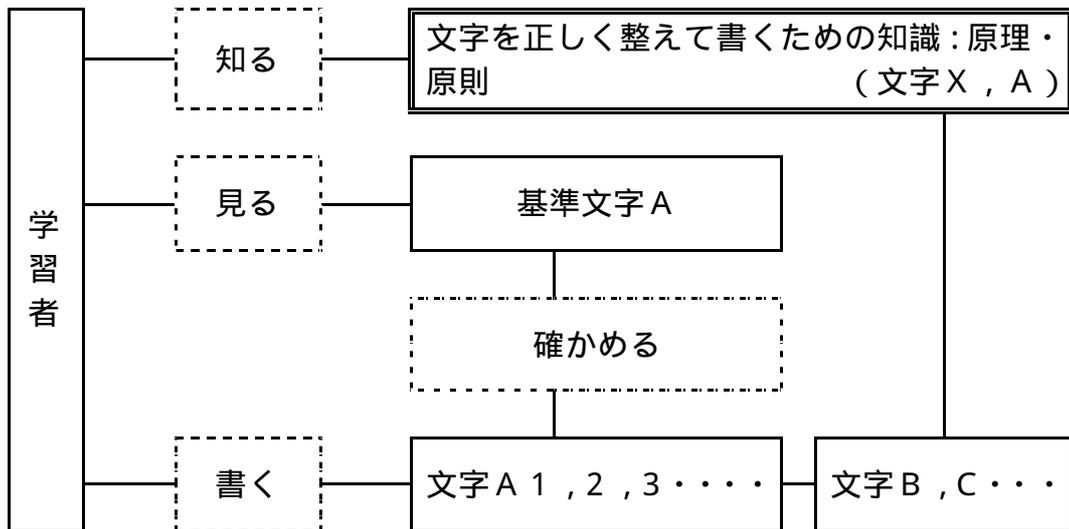
宮澤正明著「小学校国語教育相談室No44」(2003.10.15発行)光村図書出版より

このような方法では、上手な子は決まっています、大多数の子はあまり意欲もわかない。さらに、他の文字への応用もきかない。

**「書写」の学習が目ざすものは、個別の文字の完成度を高めるのではなく、あらゆる文字を正しく整えて書くことができる方法(原理・原則)を習得し、社会生活における様々な書写活動に対応できる書写能力を向上することである。**(このことを図で示すと、次の図2のようになる。)

まず、文字を正しく整えて書くための知識(原理・原則)を文字AやXで理解し、次に基準を持つ文字Aを観察して原理・原則を確認したうえで、実際に書いて理解を深める。最後のまとめに学習成果の確認として本時で扱ったX、A以外の原理・原則を含んだ文字B、C等を書き、学習成果を確認する。

図 2



宮澤正明著「小学校国語教育相談室No44」(2003.10.15発行)光村図書出版より

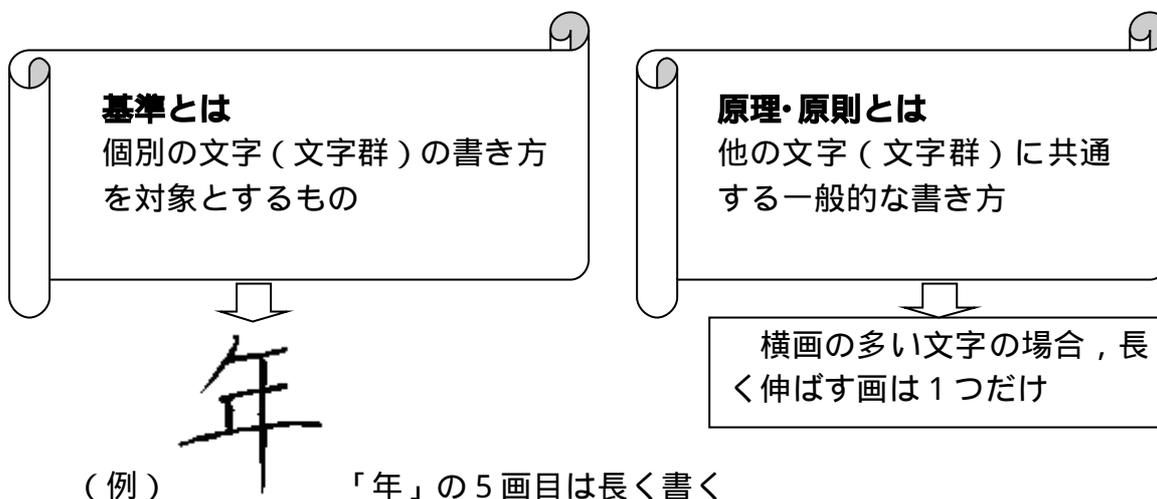
これは、学習過程の1つの例であるが、このような学習過程こそ学習指導要領で示している活用力そのものである

#### (2) 「基準」と「原理・原則」について

従来の指導では、往々にして個別の文字の書き方を念頭に置くだけで、

他の文字への一般化・応用を意識していない場合が多かった。この点について福島県書研では、**個別の文字（文字群）の書き方を対象とするものを「基準」とし、他の文字（文字群）に共通する一般的な書き方を「原理・原則」と区別する。**

菅野智明著 福島県書写書道教育研究会年報第4号「いわき大会をふりかえって」(20011発行)より  
「基準」と「原理・原則」の関係の具体例は、次のようになる。



### (3) 何のために毛筆による学習を行うのか～硬筆と毛筆の関連指導

日常毛筆で文字を書く機会はありませんのに、なぜ、毛筆による学習が小学校3年生以上で位置付けられているのか。

「毛筆による指導は、硬筆による書写力を高めるためのものである」と、前々回の学習指導要領で明示された。このことは、毛筆の機能を生かして点画を大きく書くことにより文字に対する理解を深め、それを硬筆に生かして文字を正しく書くことが出来るという毛筆による学習の意味づけを明確にしたものである。

また、前回の学習指導要領でも、「毛筆で獲得した書写力を、日常の硬筆書写に生かすためにも、硬筆と毛筆の関連学習はもとより、硬筆と毛筆とが一体化した学習指導をも取り入れながら、日常に生きて働く書写力の育成に努めたい」と書かれている。

さらに、今回の学習指導要領でも「硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い」として、硬筆による指導を明確に打ち出すとともに、「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し」として、毛筆を使用して書写の指導を行うことの国語科におけるねらいを明確に示している。

このようなことから、毛筆は毛筆、硬筆は硬筆ではなく、硬筆と毛筆の関連を図った指導を行うことが求められている。

### (4) 硬筆と毛筆の関連指導とは

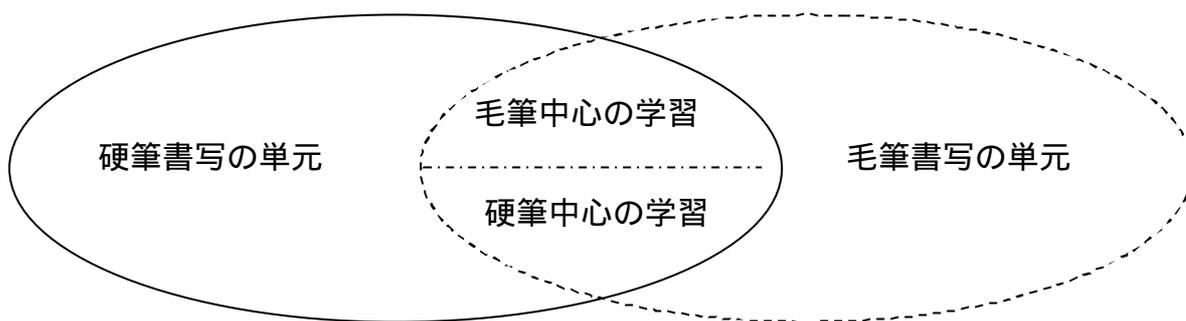
硬筆と毛筆の関連指導を具体的な学習場面で考えると次のようになる。

#### 授業における関連指導

毛筆の機能を生かして点画を大きく書くことにより文字に対する理解を深め、それを硬筆に生かして文字を正しく書くということである。これを

1 単位時間の中で行ったり，1 単位の中で行ったりする。

【 1 単位での関連指導 】



(第3学年おれ「日」における学習の例)

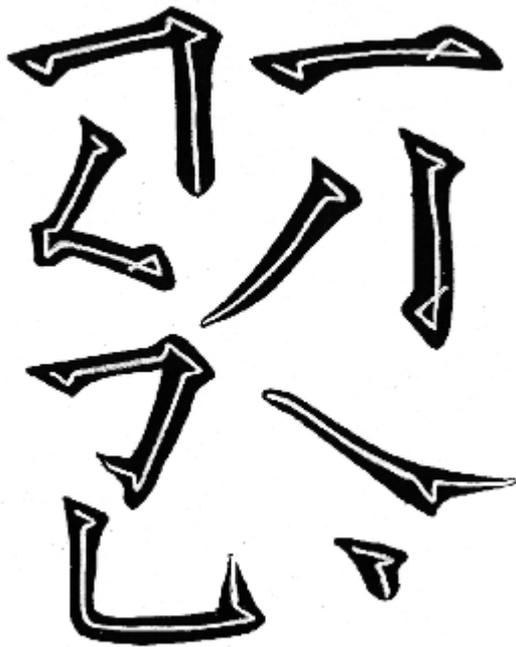
- ア 子どもたちが日常書いている「日」という文字から課題を発見する
- イ 毛筆で「日」を書くことにより，おれについて学習する  
基準の理解（まがりとおれの違い：一度止めてから方向を変える）
- ウ 「原理・原則」を見つける  
おれの方向（まっすぐのおれと内側へのおれ）
- エ 他の文字へ応用する（硬筆による学習）
  - ・ おれの方向により文字の仲間分けをする
  - ・ まっすぐのおれと内側へのおれのある文字を見つける

【 1 単位時間での関連指導 】

指導過程	硬筆書写の単元	毛筆書写の単元
導入	・ 毛筆で書かれた文字を見ることにより課題をつかむ	・ 硬筆で書かれた文字を見ることにより課題をつかむ
展開	・ 毛筆で示範されることにより，点画の書き方を知る（基準の理解）	・ 毛筆で文字を書くとともに，硬筆でも練習する（基準の理解）
終末	・ 硬筆で学習したことを生かして毛筆で同じ文字を書く ・ 同じ原理・原則を含んだ文字を毛筆で書く	・ 毛筆で学習したことを生かして硬筆で同じ文字を書く ・ 同じ原理・原則を含んだ文字を硬筆で書く

**筆使いにおける関連指導**

硬筆と毛筆の関連指導は学習内容だけではない。毛筆によって文字を書くときに書道的な複雑な筆使いをしていたのでは，硬筆に生かせない。そのため，書写の時間においては，書道的な複雑な筆使いをしないということも大事な関連指導である。



【 複雑な筆使い 】



【 硬筆との関連を図った筆使い 】

### 指導内容における関連指導

学習指導要領における各学年の目標と内容を見てみると、低学年の硬筆で学習したことが、中学年の毛筆の学習内容になり、中学年の硬筆で学習したことが高学年の毛筆の学習内容になっている。

このことから、硬筆で学んだ内容をもう一度毛筆で学習することにより、さらに文字に対する理解を深めるということも、硬筆と毛筆の関連指導であると言える。

### (5) 1 単位時間における書写の基本的な学習の進め方の例 (毛筆中心の場合)

段階	学 習 過 程	教師の支援のあり方
つかむ・考える	( 準備 )	学習環境の整備
	1 目標把握	日常の文字 ( 文字群 ) から課題を発見する ( 目標の提示 ) 既習事項との関連づけ 興味・関心・学習意欲の喚起
	2 教材の確認	口頭 ( 板書 ) による提示と確認 教科書や資料による提示の確認
	3 試し書き	自己の問題点の発見と実態把握
	4 試し書きの検討	基準との比較検討 個別及び共通の問題点の明確化
	5 基準の理解	ポイントを絞った学習基準の提示 教具や教育機器の効果的活用
6 原理・原則の理解	個別の文字の基準から一般化を図る	

すすめる	7 基準に従って練習	机間指導（個別指導）の徹底 部分練習による技能習得 自己解決のための自作練習用紙の活用 （かご書き・骨書き等の使い分け） 基準に合った練習と批正のための支援
	8 自己批正・相互批正 （練習・批正の繰り返し）	
	9 まとめ書き	
確かめる 活用する	10 評価と反省（学習のまとめ）	試し書きと仕上げの作品の比較による 向上変容の実態（成就感，満足感） 書写学習カードの活用 発展文字への転化（硬筆文字）  次時への意欲化（学習の見通し）
	11 活用（発展文字を書く）	
	12 次時の計画 （ 後片付け ）	

### ためし書きとは

学習する前の段階である  
授業の始めに書いた文字

### まとめ書きとは

学習した後に，本時のまとめと  
して書いた文字（今まで清書と  
呼ばれていたもの）

上記の1単位時間の学習の進め方はあくまで一例である。上記の例では

- 1 個別の文字（文字群）から課題を発見する（基準の理解）
- 2 個別の文字の基準から原理・原則を帰納する（原理・原則の理解）
- 3 原理・原則を他の文字に活用する（発展文字を書く）

という帰納的な学習となっているが，P5のように，

- 1 複数の文字から原理・原則を導き出す（原理・原則の理解）
- 2 原理・原則を個別の文字にあてはめる（基準の理解）
- 3 原理・原則を他の文字に活用する（発展文字を書く）

という演繹的な学習もある。また，この学習は1単位時間だけでなく，単元全体の学習において行われる場合もある。

さらに，上記の例では毛筆中心の学習であるが，P7の硬筆毛筆の関連指導に示したような硬筆中心の学習もある。（様々な学習の仕方及び単元全体の学習については「5 授業の実際」を参照されたい。）

## （6）評価について

### 書道的・作品的見方から学習の基準に基づいた形成的評価へ

今までの書写の時間はほんの一部の文字の上手な子どもだけが脚光を浴びていた。また，「勢いがある」「力強い」等，書道的観点から文字の上手下手が評価されていた。

それを，本時の評価の観点（学習の基準）を明らかにし，その他の部分の字形が整っていないくとも にするという評価を行っていく。

文字を正しく形を整えて書くためには、いくつかの学習の基準がある。たとえば「日」の場合、縦画、横画、おれ、画間、接筆等である。これらの基準を一つ一つクリアしていくと、最終的には「日」という文字が正しく整えて書けるようになる。

このような考え方で授業を進めていくと、次のような良い点がある。

- ア 授業のめあてが明確になる
- イ どの子にも賞賛される機会が与えられるようになる
- ウ 書道的な見方は人によって評価が違うが、この方法だと人による評価のぶれがない
- エ どこをどう直せばよいか明確になり、形成的評価が行いやすい
- オ 基準によって文字を見ることにより、子どもたちの文字感覚が育つ

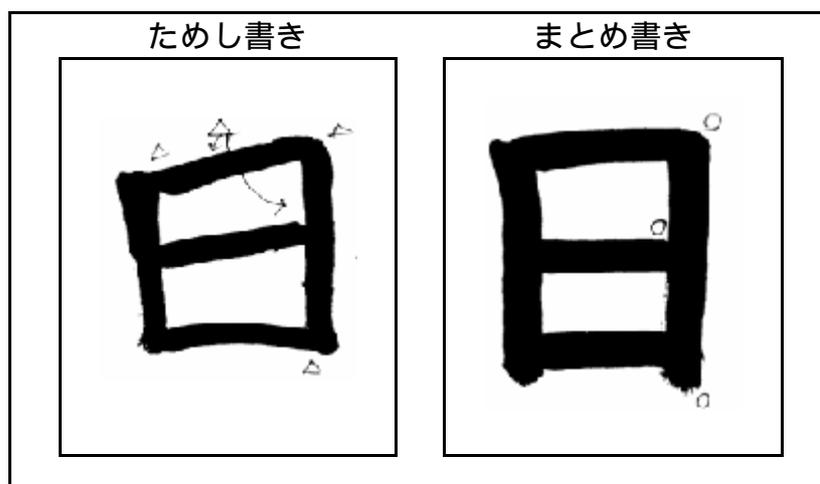
### 文字感覚とは

「文字や文章が正しく整って書けているかどうかを見分ける感覚」のことである。これは、文字を正しく整えて書くための要素（基準、学習内容）をきちんとおさえて系統だった学習を積み重ねていく中で育っていく。

### 相対的評価から個人内評価へ（掲示の工夫）

上記のような評価を行っていったとしても、最終的に全ての文字を一同に並べると、どうしても優劣がつく。しかし、書写の時間はコンクールではない。書写の時間は相対的な優劣よりも、個人内での学びの成果を意識できるようにすること（個人内評価）が望ましい。

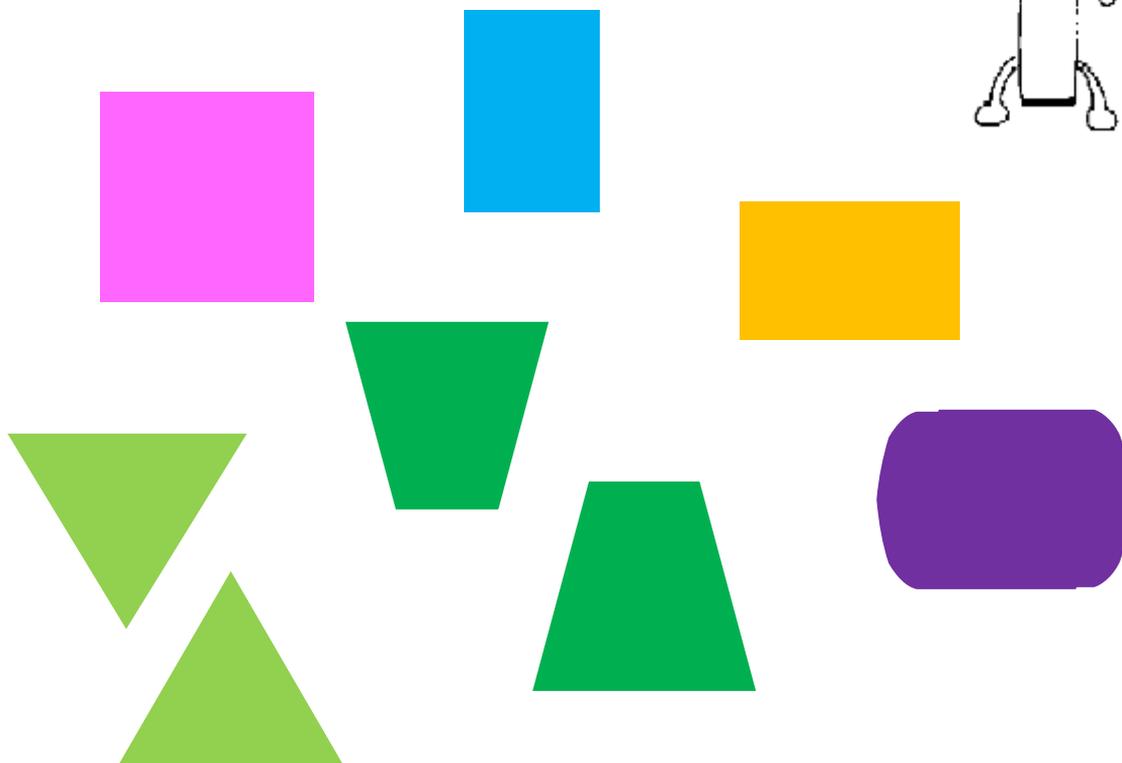
総時数 2 時間の単元だとしても、ためし書き・1 時間目のまとめ書き・2 時間目のまとめ書きと、計 3 枚が残ることになる。これを並べてみると、個人内の学習の成果である文字の変容が明らかとなる。そのために、書写に関する掲示を次のようにすることも個人内評価を意識付けるのに効果的である。



単元の始めのためし書きを左側に、1 時間ごとのまとめ書きを右側に張り重ねていく  
4 つ切り画用紙等を台紙に使用するとよい

# 書写の原理・原則

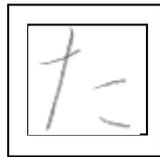
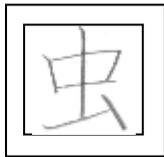
～ 文字のきまり ～



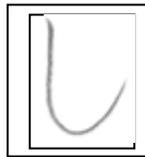
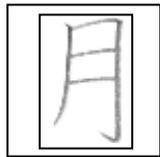
# 字形(概形)

文字のおおよその形を「概形」といいます。字形をおおまかにとらえることで字形を整えることができます。

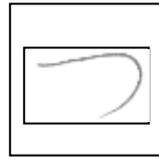
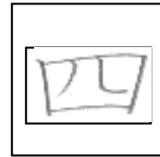
1 だいたい真四角



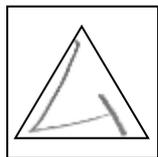
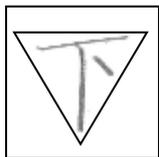
2 縦長



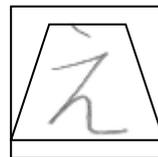
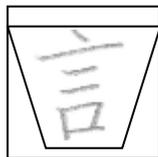
3 横長



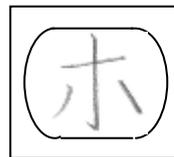
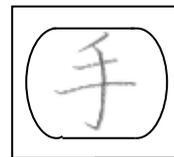
4 三角



5 上が広い・下が広い



6 中が広い



分類の仕方は、教科書によって違うんだよ!



## Q & A : 字形が整わないときには・・・?

なかなか字形が整わないときには、自分の書いた文字の概形をとってみると、字形が整っているのかがはっきりします。基準となる文字の概形と、自分の書いた文字の概形を比べてみると違いがはっきりして、次に書くときに、文字の形が意識できるようになります。

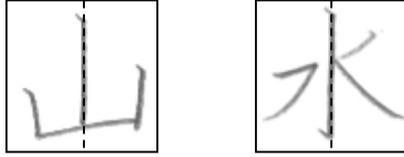
例



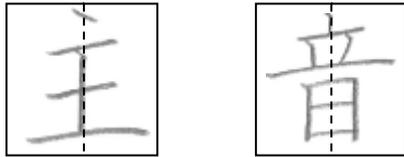
# 文字の中心

文字の中心は、字形を整える基準の1つです。文字の中心とマス目の中心線や行の中心を合わせて書くことができます。

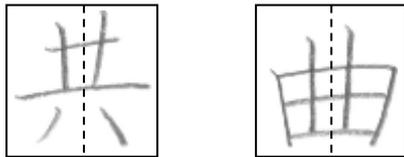
## 1 中心に長い縦画のある文字



## 2 中心に点がある文字



## 3 左右の部分の大きさがほぼ同じ大きさの文字



## 4 中心で左右の払いなどが交わっている(接している)文字



## 5 中心がとらえにくい文字



中心がなかなか意識できないときには、中心がそろっている文字とそうでない文字を提示してあげるといいよ!



どれが整っているかな?



## Q & A : 中心がとらえにくいときには・・・?

中心がとらえにくい時には、概形をとってみると中心がどこかわかります。



# 点画の長短

手書きの文字は、一画（又は二画）だけ長く書くようにすると、そこが強調されて字形が整うようになります。

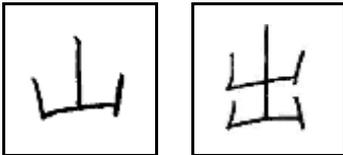
## 1 横画が多い文字

一画だけを長く書く



## 2 縦画が多い文字

中央を長く書く



士

士だか士  
だか分から  
ないよ。

## 3 左右のはらい

伸ばして書く

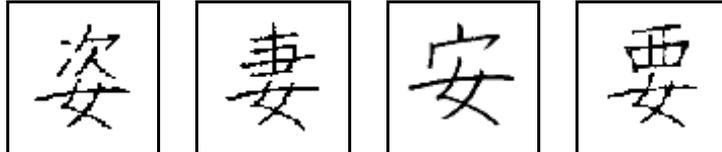


## 4 「そり」「曲がり」

長く書く



## 5 上下の組立方で「女」が付く場合



### Q & A : 手書きの文字と活字って違うの？



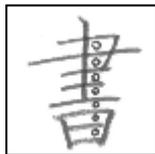
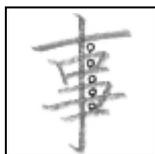
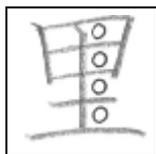
「車」という文字で比べてみましょう。活字は正方形のマスの中にデザイン化して作った文字で、一画目と六画目の長さはほぼ同じです。手書き文字は、ふつう一画だけを強調して長く書きます。また、活字は横画は水平ですが、手書き文字だとやや右上がりになります。さらに、まん中の「日」の部分も活字は垂直に折れていますが、手書き文字だと下すばまりに斜めに折れます。

このようにずいぶん違うものですね。

# 画と画の間 (画間)

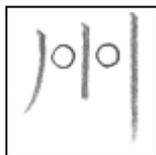
同一方向の点画が3つ以上並ぶときには、それぞれの間をほぼ同じになるように書くと、字形を整えることができます。

1 横画が3つ以上並ぶ。

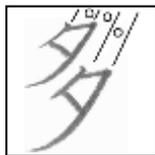
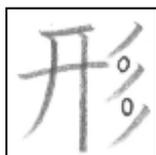


「三・日・田・目・言・佳・耳・車・青・・・」などの部分を含む漢字も同様に注意してね！

2 たて画が3つ以上並ぶ。



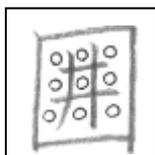
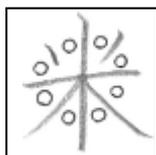
3 ななめの画が3つ以上並ぶ。



4 点が3つ以上並ぶ。



5 その他（方向が違っている場合でも，空間を均等に分割すると良い。）



## Q & A : 画間が均一にならないときには・・・?

画間が均一になっていないと，文字全体のバランスが整いません。なかなか画間に気付けないときには，提示の仕方や分解文字の組立などの操作で気付かせるといいでしょう。

等間隔でない画間  
付かせる。



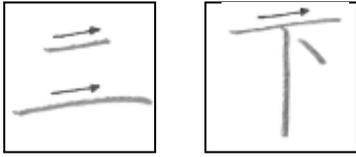
みし，正しい画間の文字に気

分解文字を組み立てさせる。など

# 点画の方向

点画の方向に気を付けて書くと、字形を整えることができます。

1 横画はやや右上がり



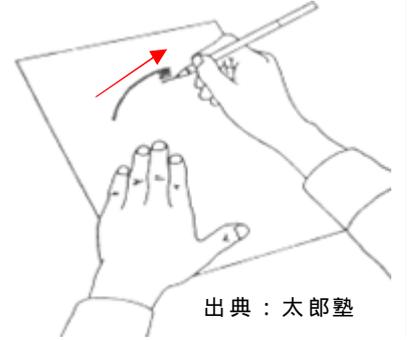
2 縦画は真下



3 点は同じ方向

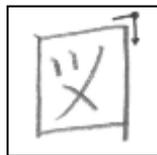
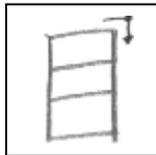


正しく鉛筆を持って手首の右下の骨の部分に紙につける。そして、左右に手を動かすと、右上がりの線が書けるよ。

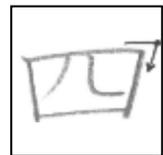
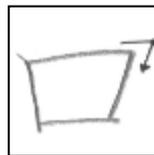


4 折れてからの方向

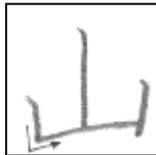
真下



やや内側



右上がり

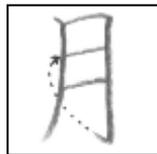
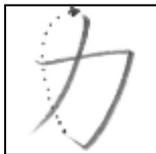


右下がり

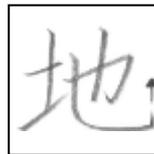


5 はねの方向

次の画へ向かって



最後は上へ



6 左はらいが2つ以上ある・・・方向が変わる。



## Q & A : 方向を意識させるには・・・？

方向を考えて書くというのは、子どもたちにとっては難しいことです。分解文字などを使って方向を意識させて操作させたり、方向が正しい文字とそうでない文字を提示したりすると良いでしょう。

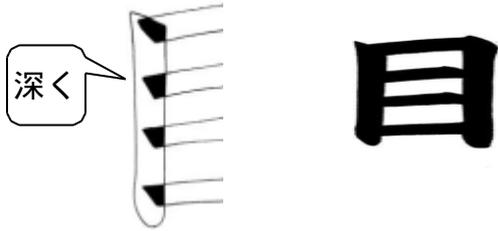


## 点画の接し方

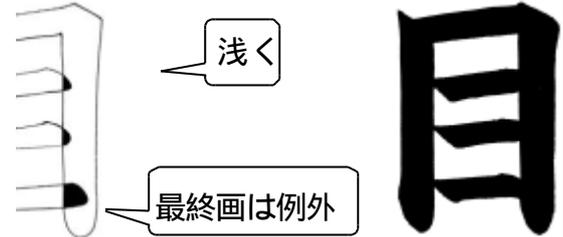
点画の接し方には、深い・浅いがあり、毛筆を使って書く方がより明瞭で分かりやすくなります。

### 1 接し方の原則

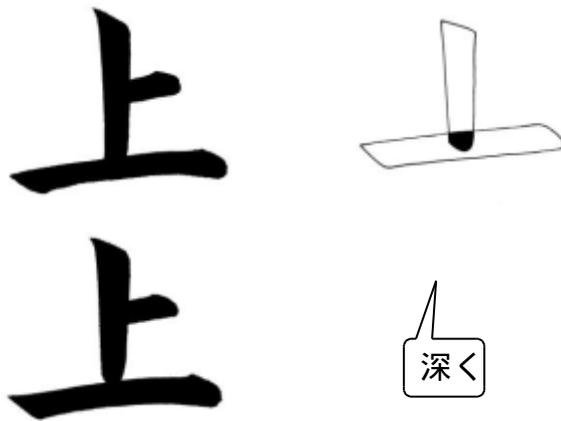
(1) 縦画に深く接する横画



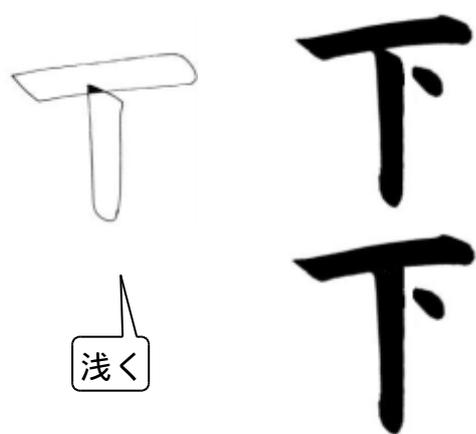
(2) 縦画に接する横画



(3) 縦画に接する横画



(4) 横画に接する縦画



### 2 接し方の位置

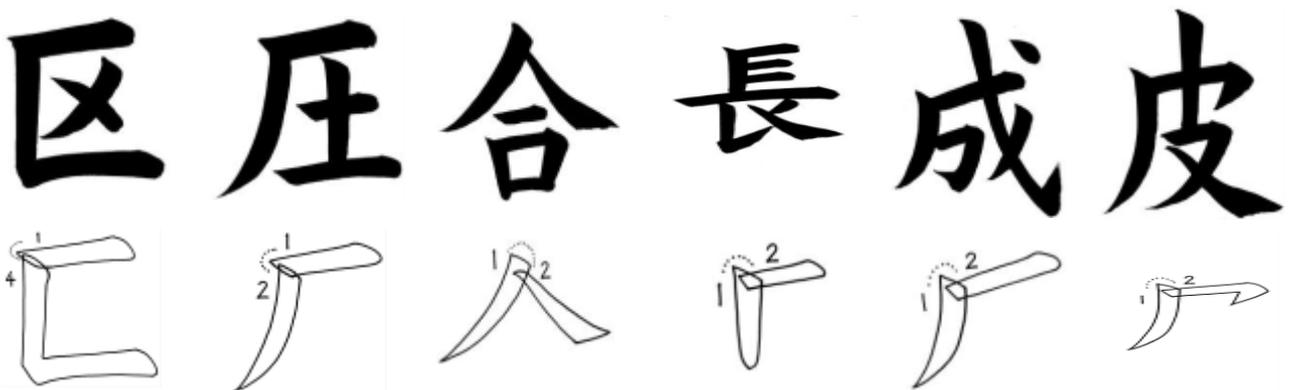
(1) 口の中に何も無い場合



(2) 口の中に何かある場合



### 3 接し方と筆順との関連 (先に書く画が、わずかに出るように書くのが原則)

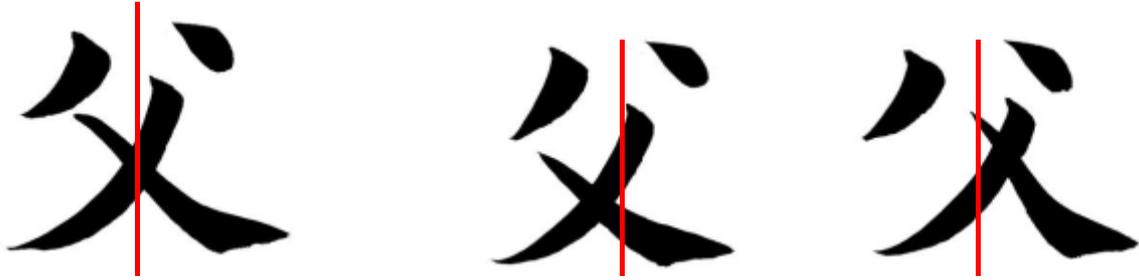


# 点画の交わり方

点画の交わる位置に注意して書くと、字形が整います。

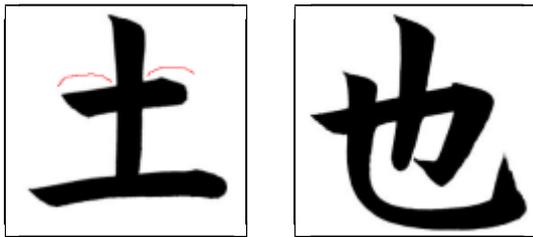
## 1 交わる位置

交わる位置が違っていると  
字形がくずれちゃうね

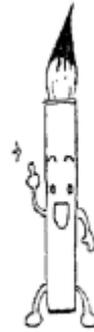


## 2 へんになったときの交わり方の変化

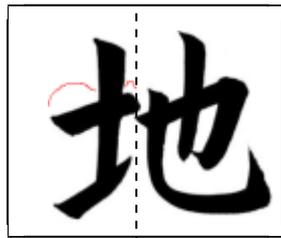
「土」「木」のように、縦画が横画のほぼ中央で交わる文字も、へんになったときは、縦画が横画の右寄りで交わる。



「土」がへんになると、左右の幅が狭くなるね

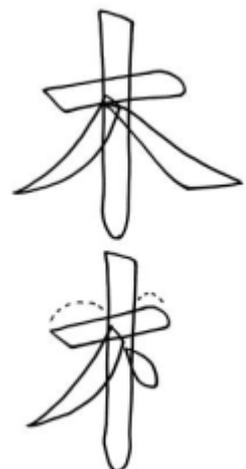
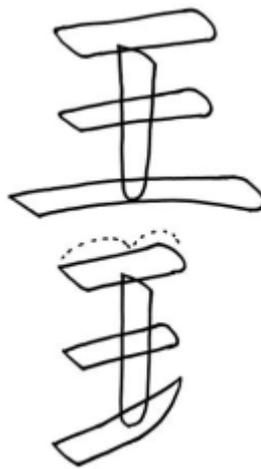
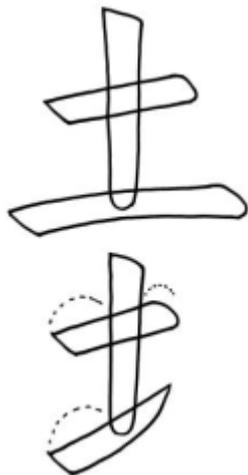


「土」の第一画の横画に対して第二画の縦画は、右の方で交わっているね



へんになると横画の右上がりが強くなるね。

最後の横画は右上払いに変化するね



## 組み立て

二つ以上の部分からなる文字は、それぞれの部分の大きさや位置など、組み立て方に注意して書くと、字形が整います。

### 1 上下の部分から構成されている文字

竹合 ⇒ 答 意心 ⇒ 意

それぞれの部分の高さ，字幅，位置，大きさ，中心に注意！



### 2 左右の部分から構成されている文字

木木



林



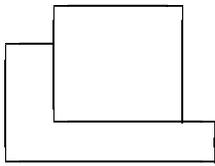
字の幅や形，交わり方や画の長さ，二つの部分の高さや位置関係にも注意しよう。

人重力



働

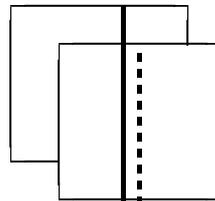
### 3 「によ」のある文字



右払いを長く書いて，上の部分がはらいの内側におさまるように書きます。

道 道

### 4 「たれ」のある文字



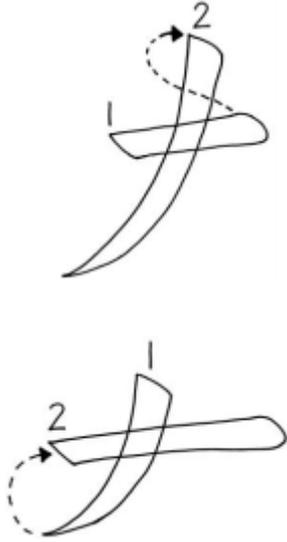
内部の中心は，文字の中心よりやや右にずれるよ。下の例を見て比べてみよう。

座 座



# 筆順

筆順を誤ると、点画の長短や方向、接し方などが変わり、字形が乱れることがあるので、正しい筆順で書くことが大切です。

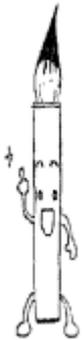


# 左 左 右 右

文字の概形が  
変わってしまうね。



## 筆順の原則



筆順には  
きまりがあるよ。

大原則1 上から下へ書いていく。

大原則2 左から右へ書いていく。

原則 横画を先に書く。

横画が後

中が先

外側が先

左払いが先

貫く縦画は最後

貫く横画は最後

横画と左払い（横画が後）

（横画が先）

三 王 言

川 学 例

十 七 土

田 由 王

小 水 楽

円 国 司

人 父 文

中 書 手

女 子 母

右 有 希

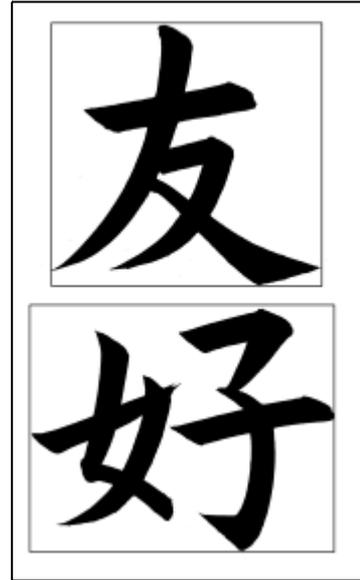
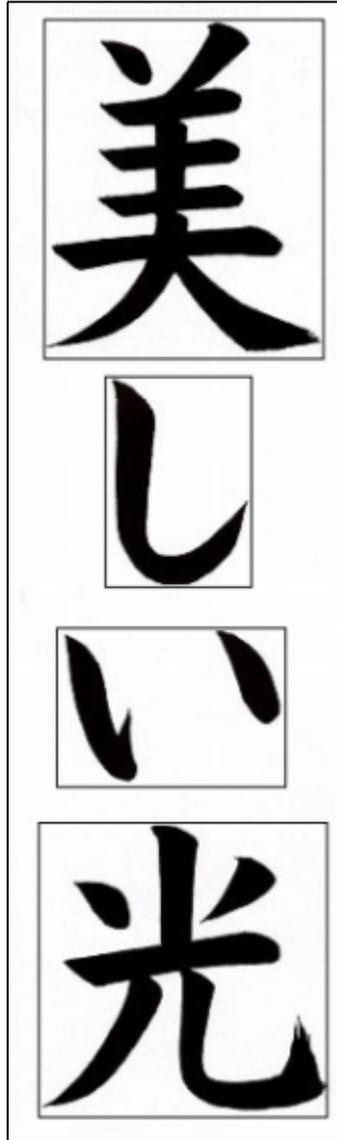
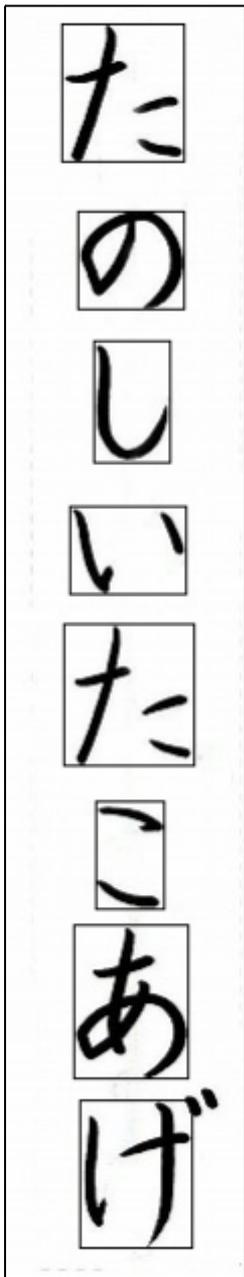
左 友 在

## 文字の大きさ

文字を2つ以上配列して書くときは、文字の大きを意識して書くことが大切です。

### 文字の大きさのついでの原則

- 1 ひらがな・カタカナは、大まかな概形（大きな正方形・小さな正方形・横長長方形・縦長長方形など）をつかんで書く。
- 2 漢字は大きめ、かなは小さめに書く。
- 3 画数の小さい字は小さめ、画数の多い文字は大きめに書く。
- 4 用紙・罫線・マス目に合わせた大ききさで書く。



大きく書けばいいってもんじゃないよ。小さすぎてもよくないね。

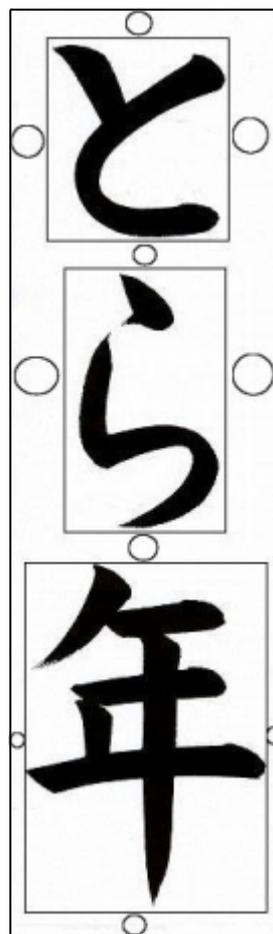
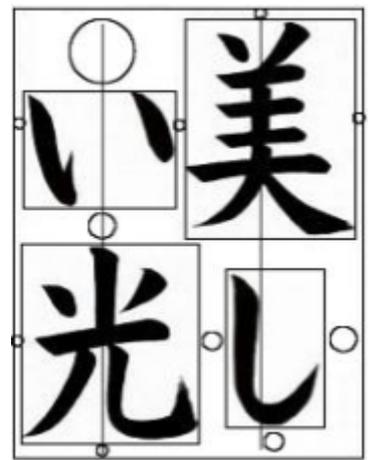
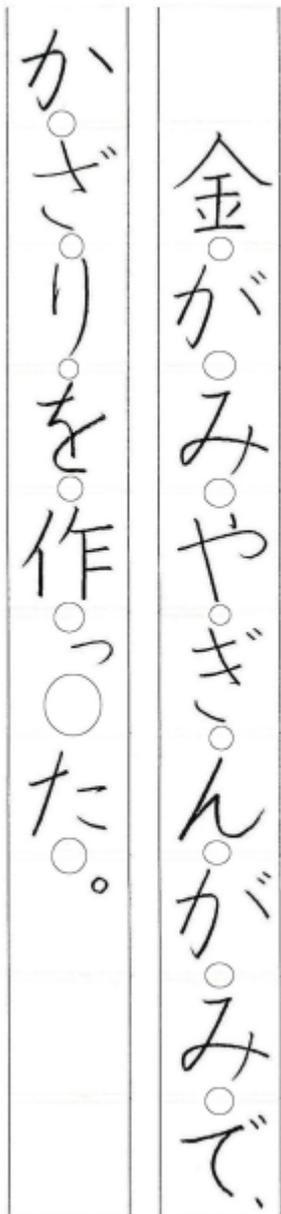
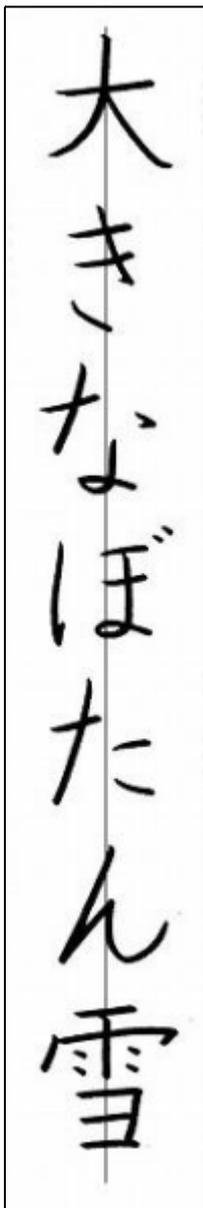


## 配列 (字配り)

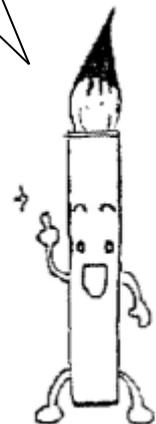
紙面に合った文字の並べ方を配列と言います。文字や文章が美しく整って見えるために大切な要素です。

### 配列のポイント

- 1 行の中心が通ってるいるか。
- 2 文字の大きさはよいか。(文字の大きさの項目を参照)
- 3 字間はほどよく空いているか。
- 4 行と行の間はほどよく空いているか。
- 5 用紙の上下・左右の余白はほどよく空いているか。



新しい学習指導要領では、字配りの意味も含めて「配列」という用語だけになったよ。



# 正しい姿勢

正しい姿勢をとることでより楽に書き続けることができます

右肘は机につけないようにする

背筋を伸ばす

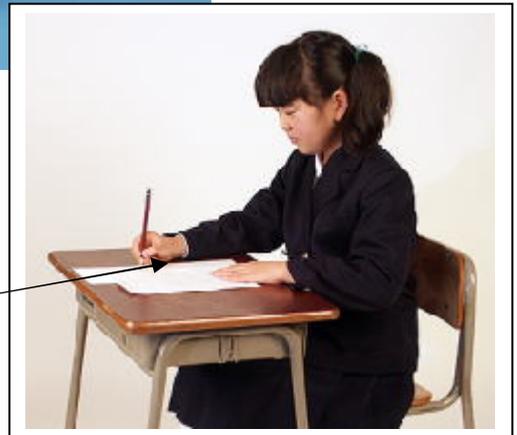
おなかと机の間をにぎりこぶし1つ分あける

背中といすの間をにぎりこぶし1つ分あける

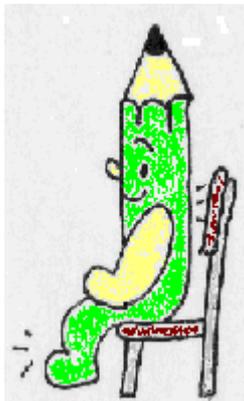
左手のひらで半紙をおさえる

足は少し開き、足裏をぺたんと床につける

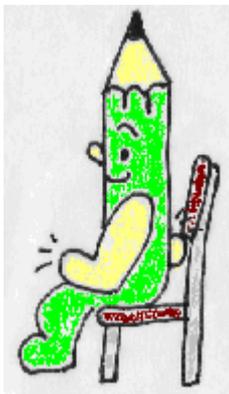
硬筆の場合は、鉛筆を持つ方の手の手首のところにある骨が机につくようになるよ。



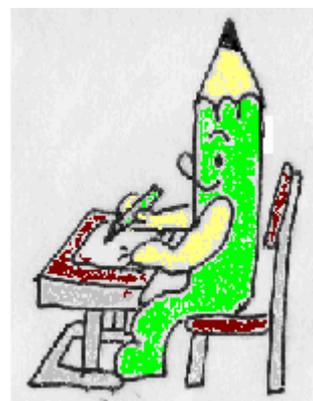
## 【正しい姿勢のとなえ歌】



あしはぺったん  
せなかはぴん



おなかとせなかに  
くうひとつ



かみをおさえて  
さあかこう

# 鉛筆の持ち方 1 (実践編)

正しい持ち方を指導し、ウォーミングアップをしましょう。

正しい「鉛筆の持ち方」を身に付けさせるために、次のような方法が考えられます。児童生徒の実態に応じて、実践してみましょう。



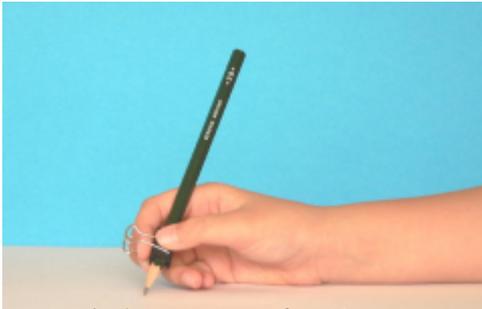
三角鉛筆を使って

【3本の指の使い方がよく理解できます。】



太い軸の筆記具を使って

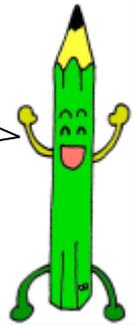
【自然と3本の指で持つことができます。】



ダブルクリップを使って

【指の位置の理解には有効ですが、鉛筆を回転させられないので注意が必要です。】

文字を書くことは、指先の運動です。鉛筆で文字を書く前に、ウォーミングアップをすることも大切なことです。



指先の巧緻性や書くときの鉛筆の軸回しを習慣化するのに効果があります。

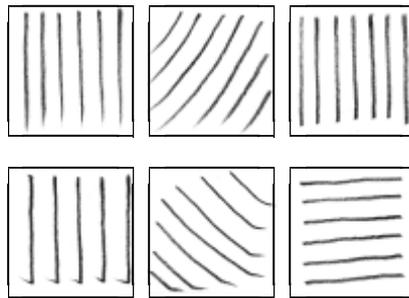


取ったひもを元の位置に戻す。軸を逆回転させ、巻き取る。



鉛筆の上方にひもを付け、消しゴム(もつと軽いものでもよい)をぶら下げる。鉛筆の軸を回転させながら、消しゴムがぶら下がったひもを鉛筆に巻き取る。

消しゴムクレーン鉛筆



鉛筆体操(二センチ程度のマスを使う)

ウォーミングアップあれこれ

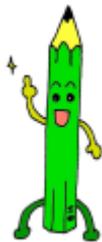
# 鉛筆の持ち方2【理論編】

鉛筆を正しく持つと、なぜよいのかを指導しましょう。



「鉛筆の持ち方」は、書写学習の中で基礎となる中心的な内容です。しかし、いくら指導しても、なかなか改善しない指導事項でもあります。

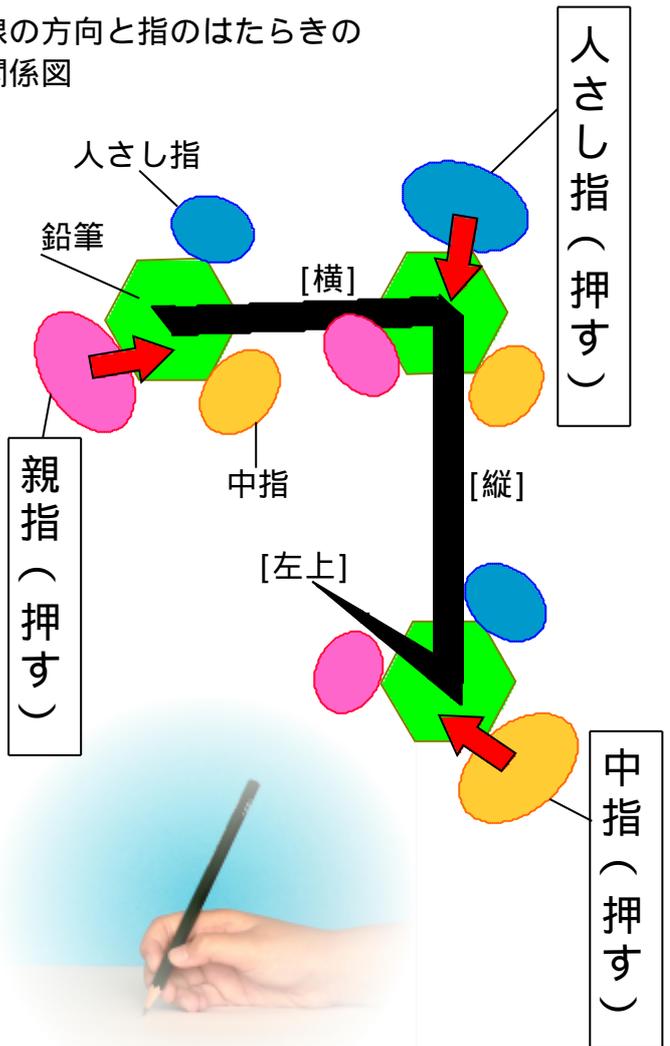
鉛筆を持つときの指のはたらきを理解させることが、第一段階で必要となってきます。児童生徒の発達段階に応じて実際に書きながら説明して理解させましょう。



「親指」「人さし指」「中指」には、3つのはたらきがあります。  
 線の方に押すはたらき（推進力）... アクセル  
 線の方をコントロールするはたらき（方向制御）... ハンドル  
 推進力を抑えるはたらき（推進力制御）... ブレーキ

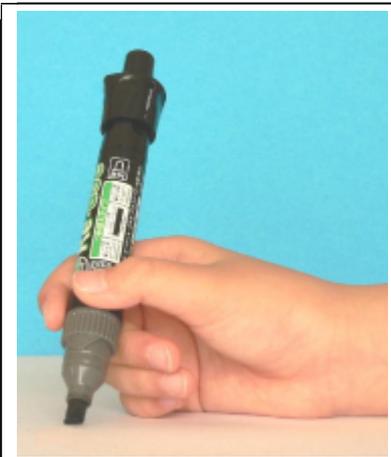
線の方と指のはたらきの関係図

線の方				
左上	縦	横		
中指	人さし指	親指	アクセル	指のはたらき
人さし指	親指	人さし指	ハンドル	
親指	中指	中指	ブレーキ	



# さまざまな筆記具

書く目的や、文字の大きさなどに  
応じて筆記具を選びましょう。



いろいろな花をたく  
さんそだてたい。  
ちえみ

フェルトペンで短冊に七夕の願いを書いた例



太いフェルトペンで画用紙にポスターを書いた例

# 文字に対する興味関心を高めるための工夫

いろいろな活動を通して、楽しく文字を学習するために工夫していくことが大切です。

教科書では、砂に文字を書いたり、落ち葉や枝で文字をつくったりする活動例が示されています。いろいろな筆記具で書くだけでなく、いろいろな物を使って文字に対する興味関心を高めていくことも大切です。



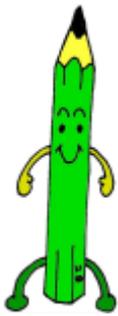
砂に書く



粘土に書く



紙粘土で作る



「紙粘土」を使って文字をつくることもできます。

そのよさは...

長さ，方向，太さが自由に表現できること。

簡単にやり直すことができること。

筆順を確認することができること。

台紙に貼って，保管や掲示ができること。

## Q&A：文字感覚って何？

「文字や文章が正しく整って書けているかどうかを見分ける感覚」のことです。

例えば、左の「里」という文字を見てみましょう。画間がそろっていないため、文字が整って見えませんね。

次にその下の「目」という文字を見てみましょう。

「目」は、まっすぐ垂直方向に折れる文字ですが、これは下広がりに折れているため、やはり、整っては見えませんね。

また、右の「白い」という文字のように文字の中心が通っていないと、やはり整っては見えません。

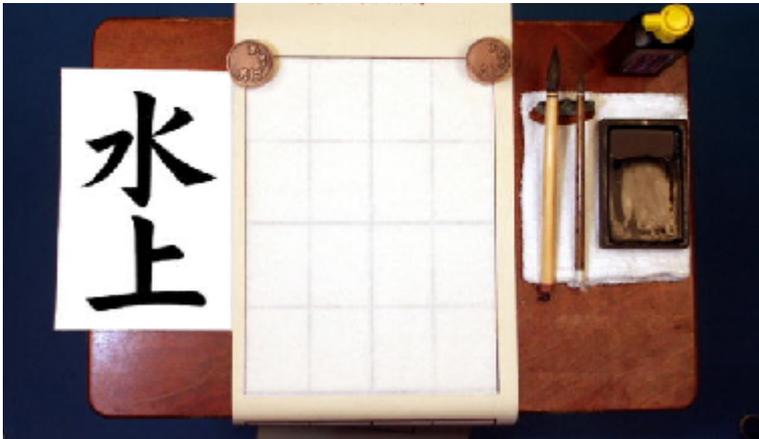
この文字感覚は、文字を正しく整えて書くための要素（基準，学習内容）をきちんとおさえて系統だった学習を積み重ねていく中で育っていくものです。



# 入門期における毛筆指導のポイント

習慣となるまできちんと指導しましょう

## 1 用具の置き方



左手で書く場合の用具の置き方は左右反対になります。

筆の後始末用に水を入れたペットボトル・びんなどを用意する場合は、足下のじゃまにならないところへ置いておくとういでしょう。

## 2 筆の選び方

毛筆の学習にあたっては、入門期には剛筆、穂先が短めのもの（穂先が5cm程度の短鋒・三号程度の太さ）がよいでしょう。



## 3 筆の持ち方

筆は親指のつけ根と筆の間に指が2本入るくらいにして、力を入れずに持ちます。

[指1本がけ]



[指2本がけ]



## 4 書いた後の紙の始末の仕方【紙ばさみの活用】

練習した半紙などは、「紙ばさみ」などを利用して机の左わきに置くとすっきりと整理できてよいでしょう。

半裁した新聞紙の間に、練習した半紙などをはさみ込みます。



机の左側に紙ばさみをかけるようにすると便利です。



## 5 大筆の洗い方



筆に残った墨を使用済みの半紙などでふきとります。  
ペットボトルまたは広口ビンに入れた水の中で筆の穂先をよく洗います。

筆の軸まで入れて軸にまで墨をつけてしまうことのないように気をつけましょう。

ペットボトル容器は、できるだけ口が広いものの方が筆を洗うのには便利です。



筆を横に寝かせて、使用済みの半紙などで穂先を整えるようにして水気を取りましょう。

時々、穂（毛の部分）の根元に入り込んだ墨を落とす必要があります。植木鉢の受け皿やポリスチレン容器などを使って穂の部分を垂直に立てて押し洗いすると、根本の墨がよく取れます。



## 6 小筆の洗い方

大筆のふき方と同じ

小筆は、大筆のように水で洗ってしまうと、ばさばさになり、細い線が書けなくなります。

## 7 筆のしまい方（保管の仕方）

各自、筆巻に巻いて書写セットにしまいますが、クラスで簡単な筆架（筆を下げ乾燥させておくもの）を作成して、一括保管しておくのもよいでしょう。



## 8 硯の始末の仕方

使用済みの半紙で余った墨をふき取ります。

学期に1回くらいは、水でよく洗うようにするとよいでしょう。

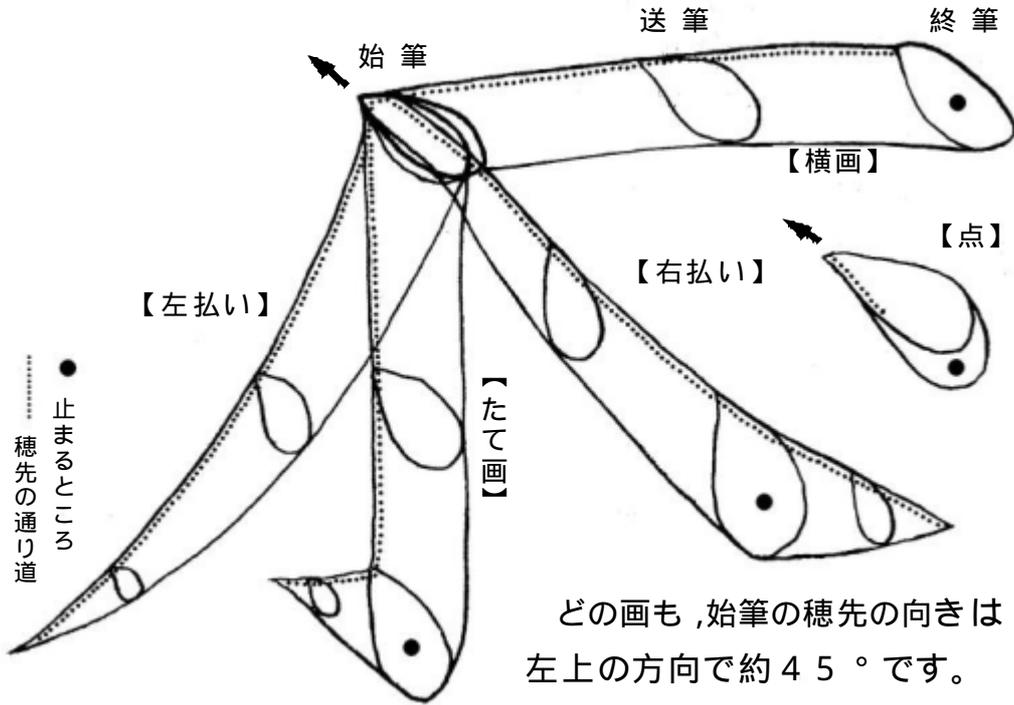
**余った墨は墨液のボトルに戻してはいけません。墨が変質し、悪くなります。**

## 9 下敷きの保管の仕方

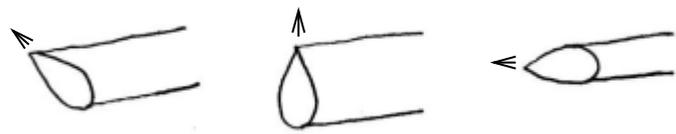
二つ折りにすると折り目ができるので、巻いて保管するとよいでしょう。

# 基本的な点画と筆使い

基本点画の用語や筆使いを正しく指導しましょう。



## 【始筆】



穂先の向きが違っていると、線の太さが変わる。

## 【終筆】



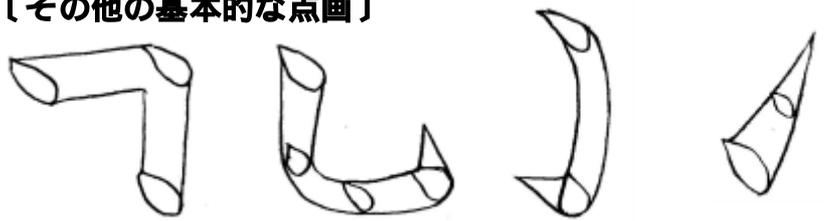
止め

はね

左払い

右払い

## 【その他の基本的な点画】

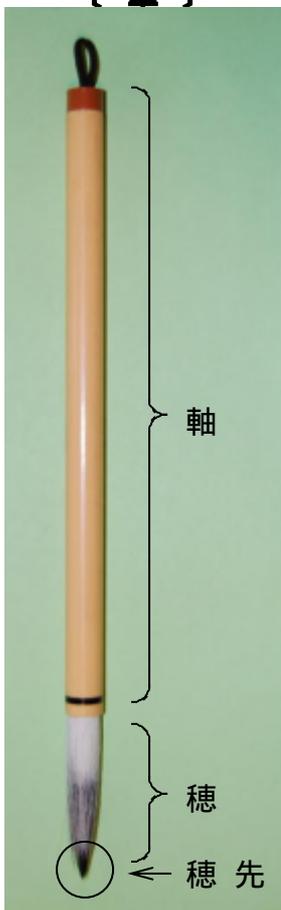


折れ

曲がり

そり

右上払い



# 横画

横画は、穂先が画の上側を通るように筆を運びましょう。

## 1 【 始筆 】 （書き始め）

穂先の向きに気を付けて、筆をゆっくり下ろす。



## 2 【 送筆 】 （書いている途中）

筆の軸は回さずに、やや右上がりに筆圧をゆるめないで筆を運ぶ。

穂先はいつも同じ向きです。



穂先の向きは約45°



## 3 【 終筆 】 （書き終わり）

筆を止めてから、穂先の方へ押し戻すようにしてゆっくり筆を上げる。



（HP基本編より）

横画は画によって書きぶりが異なります。



… 反るように。

… 筆圧は一定。直線的に。

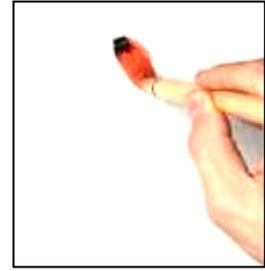
… 右上がりで伏する形。

# 縦画

縦画は、穂先が画の左側を通るように筆を運びます。

## 1 〔 始筆 〕

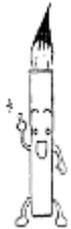
穂先の向きに気を付けて、筆をゆっくり下ろす。



## 2 〔 送筆 〕

筆の軸は回さずに、筆圧をゆるめないで筆を運ぶ。

穂先はいつも同じ方向を向いています。



穂先の向きは約 45°



## 3 〔 終筆 〕

筆を止め、軽くおさえてから、穂先の方へ押し戻すようにしてゆっくり筆を上げる。



(HP 基本編より)

縦画にはいろいろな終筆があります。

はらう



とめてもよい

軽く止める



しっかり止める



はねる



最終の縦画は、とめても、はらってもよい文字があるよ。

# 折れ

折れは、筆を止めてから軸を回さないで筆を運びましょう。

## 1 〔 始筆 〕

穂先の向きに気を付けて筆を入れる。



## 2 〔 折れ 〕

横画の終わりで筆を止める。



軸を回さず、方向に気を付けて筆を運ぶ。



筆を止め、軽くおさえてから、穂先の方へ押し戻すようにしてゆっくり筆を上げるよ。



( HP 基本編より )

折れには、いろいろな方向があります。



# 左払い

少しずつ力をぬきながら、穂先をまとめるように  
ていねいにはらいましょう。

## 1〔始筆〕

始筆は、約45°の向きでゆっくり筆を置く。

横画や縦画の時と同じだね。



## 2〔送筆〕

方向に気を付けて運筆し、筆圧を弱めながら、  
穂先をまとめるようにして筆を上げる。

穂先は、常に画の左側を通る。



## 3〔終筆〕

終筆では、穂先をまとめるように  
ていねいに。



(HP基本編より)

〔左払いの方向と長さに気をつけましょう。〕

千



人



大



月



# 右払い

穂先の位置と筆圧の変化に気をつけて筆を運びましょう。

## 1〔始筆〕

始筆は軽く筆を置く。

## 2〔送筆〕

右下方向に送筆するにしたがって  
だんだん筆圧を加えていく。

筆圧を最大にして一度筆を止めます。

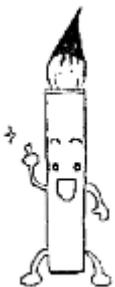
## 3〔終筆〕

少しずつ筆圧を弱めながら、穂先を  
まとめるようにして右横に払う。

穂先は、常に画の上を通る。



(HP 基本編より)



太くなったり、細くなったりするいろいろな線を書いてみよう。

## 〔筆圧について〕

「払い」の筆使いは、筆圧の加減が大切です。「払い」の練習の前に、筆圧により、細くなったり太くなったりする線を自由に書かせるとよいでしょう。だんだん太くなる線、だんだん細くなる線を書き、筆圧の加減の感覚を知ることが、「払い」の筆使いにつながります。

# 右上払い

筆圧をしだいに弱めながら、すくい上げるように払きましょう。

## 1 〔 始筆 〕

右上払いに至るまでの過程や送筆の角度によって変わるが基本は約45°に筆を置く。



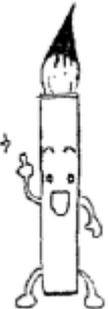
## 2 〔 送筆 〕

「はね」ではないことを意識し、運筆の方向に気を付けながら、筆圧を徐々に弱くする。



## 3 〔 終筆 〕

穂先をまとめながら、すくい上げるように払う。



「はね」とまちがえないように気を付けようね。

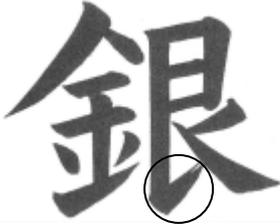
(HP 書きぞめ指導の手引きより)

### いろいろな右上払いがあります。

単独の右上払い

縦画からつながる右上払い

「点」につながる筆圧の減少



# 点

点も縦画のように、始筆、送筆、終筆を意識して書きましょう。

## 1 〔 始筆 〕

始筆は、約 45° の向きで筆を置く。

## 2 〔 送筆 〕

右下に短く引き、一度筆を止める。

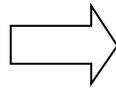
## 3 〔 終筆 〕

穂先の方に押し戻すように筆を離す。

穂先は最後に紙から離れるようにする。



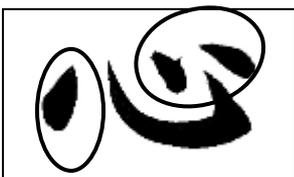
筆を置くだけではなく、点にも始筆、送筆、終筆があるんだね。



( HP 基本編より )

これでは送筆がありません。

## 〔 いろいろな方向の「点」 〕



始筆の筆圧は弱く、じょじょに筆圧を

終筆は、軽く止める。

加え終筆の筆圧は強くする。

# そり

送筆では、ゆるやかにそらせながら、筆を運ぶようにしましょう。

## 1〔始筆〕

始筆は、約45°の向きで  
ゆっくり筆を置く。



始筆は横画や縦画の時と  
同じだね。



## 2〔送筆〕

筆の軸を回さず、方向に気を付けながら運筆する。  
(「子」のそり) (「代」のそり)

(「心」のそり)



## 3〔終筆〕

終筆では、方向に気を付けながら、穂先をまとめるように ていねい  
はねる。  
(「子」のそり) (「代」のそり) (「心」のそり)



(HP 基本編より)

穂先の通り道と終筆のはねの方向にも気を付けて書きましょう。

# 曲がり

曲がりは、筆の軸を回さずにゆっくりと筆を運びましょう。

## 1〔始筆〕

始筆は、約45°の向きで  
ゆっくり筆を置く。

車と同じように  
曲がる場所では  
スピードを落とそう。

## 2〔送筆〕

下方向に進み、曲がる場所で速さを  
ゆるめ、軸を回さず穂先の通り道に気を  
付けながら、ゆっくりと進む。



## 3〔終筆〕

はねる終筆「元」「兄」など

止める終筆「改」「空」など

「曲がり」の筆使いは、筆先の位置と向きに  
気をつけましょう。

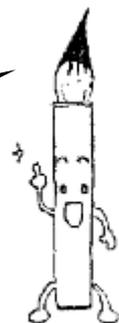


(HP基本編より)

曲がる場所では、穂先の通り道が左から上にうつります。

元

筆の軸を回さないで  
ゆっくり進むのが  
ポイントだよ。



# ひらがなの特徴

漢字との違いを意識して、やわらかな筆使いで書きましょう

## 1 漢字とひらがなの比較

漢字

ひらがな

始筆は、漢字と比べて軽く入ります。

送筆は、漢字と比べると丸みをおびます。

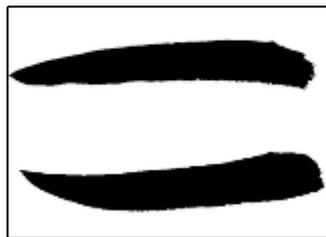
漢字と比べて、曲線が多くあります。



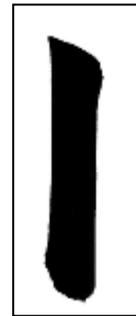
漢字の横画



ひらがな



漢字の縦画

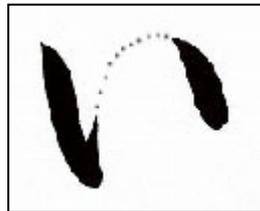


ひらがな



## 2 筆脈

画から画へのつながり（筆脈）を意識して書きます。



つづくように書くんだね。

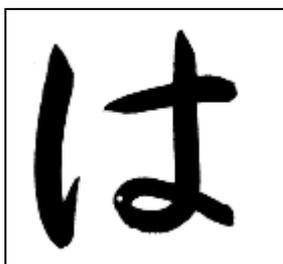


## 3 【 結び 】

方向を変えるところ（の箇所）でいったん筆を止め、筆の軸は回さずに筆を運ぶ。穂先が裏返る。

「は」の仲間

（な・ぬ・ね・ほ・ま・よ）



「お」の仲間

（お・む・す・み）



筆が、大きく一回転します。左下の方向転換は筆を返す部分なので止まります。筆使いは「お」の仲間のむすびと基本的には同じです。

# 自己批評

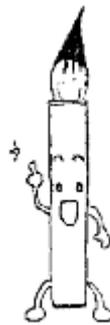
自分の書いた文字を教材文字と比べて、めあてに照らし合わせて、気付いたことや直したほうが良いところを言葉や記号で書いていく活動です。

## 1 自己批評

学習者自身が行う批評であり、自分の課題を自ら見つけ、自ら判断し、それらを解決しようとする態度を養っていく上で、大変重要です。

そのためには、教師自身が基準を明確にして、評価の観点を具体的に提示することが大切です。

批評の例



教師自身のめあての提示の仕方が大切だね。  
この学習をすると、児童生徒の文字感覚が育つよ。



- \* 画の接し方を (記号) で批評
- \* 2つの空き具合を や言葉で批評
- \* 筆圧を数字や言葉で批評

- \* 2つの空き具合を で批評
- \* 太さの変化を言葉で批評

## 2 その他の批評

(1) 教師が行う批評

(2) 学習者が行う批評

相互批評

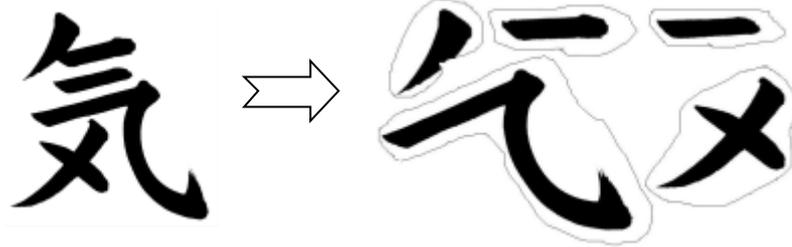
共同批評

拡大・分解文字  
(可動式)

コピー機で文字を拡大し、分解文字を作ってみましょう。点画の長さ・方向・文字の組み立てなどの指導に効果的です。

「そりの方向や長さ・はねの方向」の学習での実践例

- 1 作りたい文字のコピーを用意して大ざっぱに切り離す。  
「気」を例に



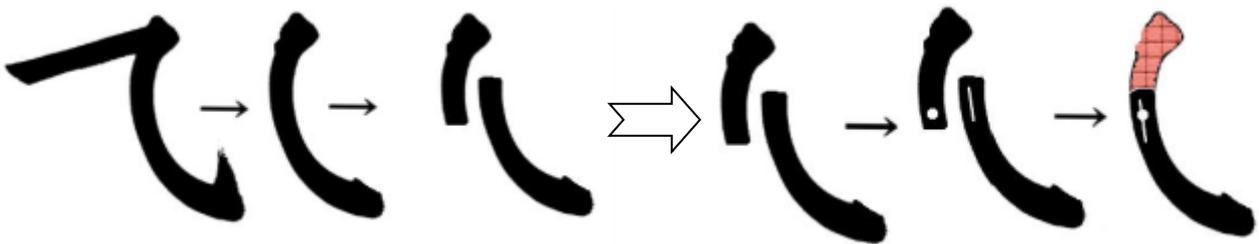
- 2 黒画用紙に糊やホチキスで仮止めしてそれぞれの画を切り取る。



- 3 動かしたい部分は、重なり部分を考えて部品を作り、図のように玉結び・玉どめをする。



- 4 画の長さを変えたい部分は、次のようにする。



- (1) 部品を作る。
- (2) 動かしたい方の部品に切れ込みを入れる。
- (3) もう一方の部品に玉結び・玉どめをする。
- (4) ボタンをかけるように、2つの部品を合体する。

- 5 文字の裏にマグシートをはる。

保存するときは、複数の文字が混ざらないよう、1文字ずつビニールの袋に入れようね。紛失を防げるよ。でも、しまい忘れないように・・・。



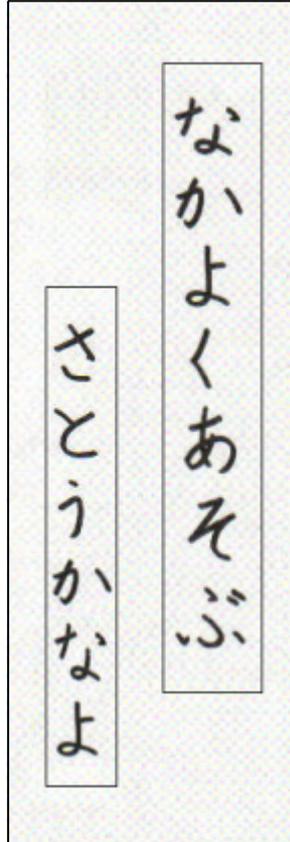
## 名前の書き方

名前を書くときは、書写で学習したことをすべて生かして書くことが大切です。名前も作品の一部です。

### 1 名前を書くときに生かす書写の学習内容

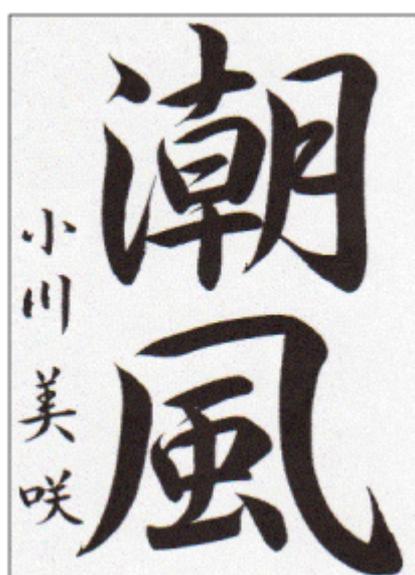
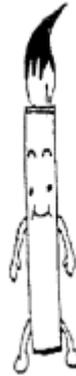
- (1) 筆記具の持ち方
- (2) 基本点画の書き方
- (3) 文字の大きさ
- (4) 字配り

### 2 具体例



- (1) 課題と名前の位置を考えて配列しましょう。
- (2) 半紙の時は、名前の下は一文  
字分空けましょう。
- (3) 行書の作品の時は、名前も行  
書で書きましょう。

1枚選んで書くのではなく、  
1枚書くごとに名前を書こう



## いろいろ 色別シール

色別シールを貼るのは、本時のめあてから自分の課題を明確にし、意識して取り組むことができるようにするためです。

### 1 「折れ」の学習での実践例

毛筆で「折れ」の学習を行い、それを生かして折れの方に注意して硬筆で書く学習をしました。その際、2種類の色別シール用意し、どちらの方向の文字集めをするのかを選択させ、シールを貼らせて学習に取り組ませました。



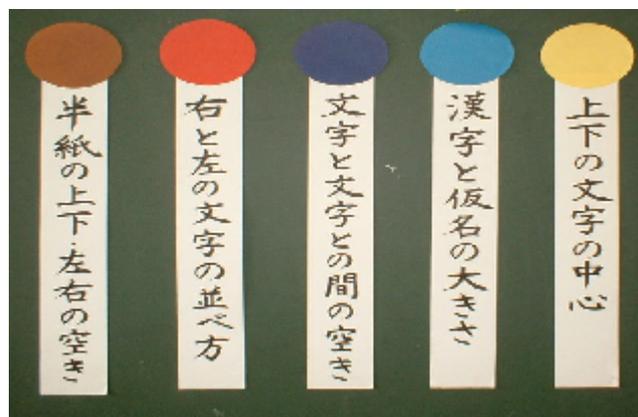
真下に折れる



内側に折れる

### 2 「配列」の学習での実践例

「配列よく書く」ためのポイントとして、5つの観点おさえ、これら色別の5種類のシールを用意し、試し書きに自分の課題となる色のシールを貼らせることで、自分の課題を意識して取り組むことができるようにしました。



色別シールを活用することで、自己課題を明確にすることができるね。

また、教師も机間指導をするときに分かりやすいね。

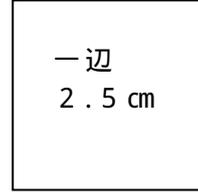
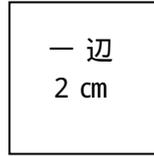
# 練習用紙（硬筆）

練習用紙を使用すると、効果的にねらいを達成できます。

1 マス目の大きさ・・・学年に応じて、次の大きさを目安とします。

(1) 1・2年 一辺 2.5 cm ~ 3 cm 程度

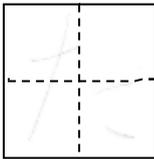
(2) 3 ~ 6年 一辺 1.8 cm ~ 2 cm 程度



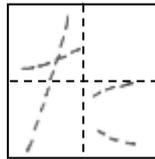
## 2 練習用紙の工夫

(1) なぞり書き

うすく



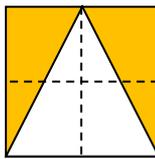
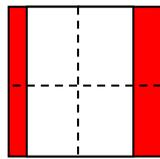
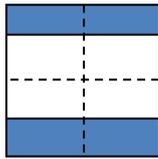
点線



大きさ・画の方向・画間など様々なポイントをとらえるのに有効。自分で作成するときは青鉛筆で書くといいよ。印刷するとちょうどうすくなるんだ!!

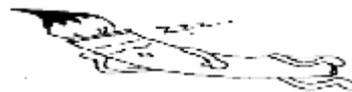
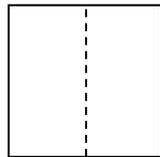
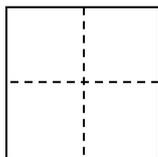


(2) 概形をとった練習用紙



字形をとらえるのにはとってもいい方法だね!

(3) 4つに区切る・中心線を入れた練習用紙

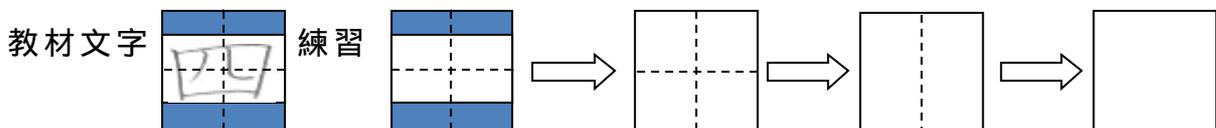


中心を意識して書けるといいよね。はじめは中心線だけでなく、4つに区切ったマスを使用すると、文字全体のバランスも整うよ!!

## 3 作成上の留意点

(1) 練習用紙では、段階を追って練習できるように注意します。(基準となる文字を左側に置き、右に進んでいくようにマス目を配列します。)

<例> ねらい「字形を正しく理解して書くことができる。」



(2) 1枚の練習用紙に「**試し書き・基準となる文字からの気付き・練習・まとめ書き・ポイント・自己評価(感想)・日常化を図るコーナー**」が含まれるように作成しておくことで、1時間の授業の流れやポイントがよくわかり、後から振り返ることができます。

低学年用

【きょうのポイント】

☆がくしゅうしたことをほかのものでも思い出してみよう。

△ もうすこし

○ よい

◎ たいへんよい

【きょうのはんせい】

ポイント◎

ポイント△

裏

【きょうのポイント】

☆がくしゅうしたことをほかのものでも思い出してみよう。

△ もうすこし

○ よい

◎ たいへんよい

【きょうのはんせい】

ポイント◎

ポイント△

表



ポイントは2つか3つにおさえよう。最後にポイントについて評価するといいいよ。

はじめに点線で折って、教材文字を見えないようにして試し書きをすると、いつもの文字の様子がとらえられるよ。最後にまとめ書きと比べてみると、どのくらい学習内容を理解したのかが分かるね。

授業のまとめに、書写の教科書についている漢字の一覧表やひらがな・カタカナの表から、学んだことを生かして書ける文字をさがして書くと、日常化につながるよ。ゲーム感覚でやると楽しいね!!

教材文字には赤鉛筆などでポイントを書き込ませよう。慣れてくると、自分で気付いたことをどんどん書くことができるようになるよ。

高学年用

【きょうのポイント】

☆がくしゅうしたことをほかのものでも思い出してみよう。

△ もうすこし

○ よい

◎ たいへんよい

【きょうのはんせい】

ポイント◎

ポイント△

裏

【きょうのポイント】

☆がくしゅうしたことをほかのものでも思い出してみよう。

△ もうすこし

○ よい

◎ たいへんよい

【きょうのはんせい】

ポイント◎

ポイント△

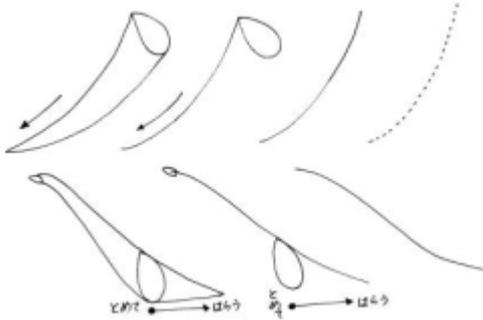
表

授業のまとめに、書写の教科書についている漢字の一覧表やひらがな・カタカナの表から、学んだことを生かして書ける文字をさがして書くと、日常化につながるよ。ゲーム感覚でやると楽しいね!!

## 練習用紙(毛筆)

練習用紙を使用すると、効果的に本時のねらいを達成できます。

### 1 練習用紙のいろいろ (1) 基本点画の練習



横画，縦画，折れ，はね，点，はらい，そり，曲がり等の筆使いを意識できる。

### (2) かご書き



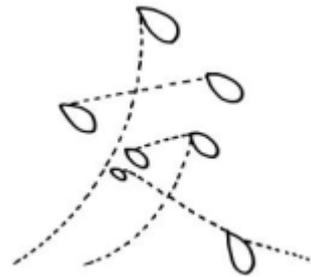
基本点画はもちろん，文字の字形，外形，点画の位置，画の接し方などを意識できる。

### (3) 骨書き



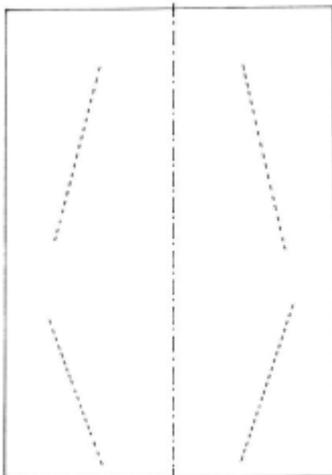
点画の位置(配置)，点画の方向などを意識できる。

### (4) 始筆や穂先の動きを記入したもの



穂先の向き，始筆の位置(終筆の位置)を意識できる。

### (5) 補助線入り



紙面の  
おさめ方  
(字形  
で配列・  
配置等)  
を意識  
できる。

### (6) 部分練習用紙



文字の  
部分の  
おさめ  
かた  
(位置  
や大き  
さ等)  
を意  
識し  
て練  
習で  
きる。

「湖」の「古」のおさめ方の例

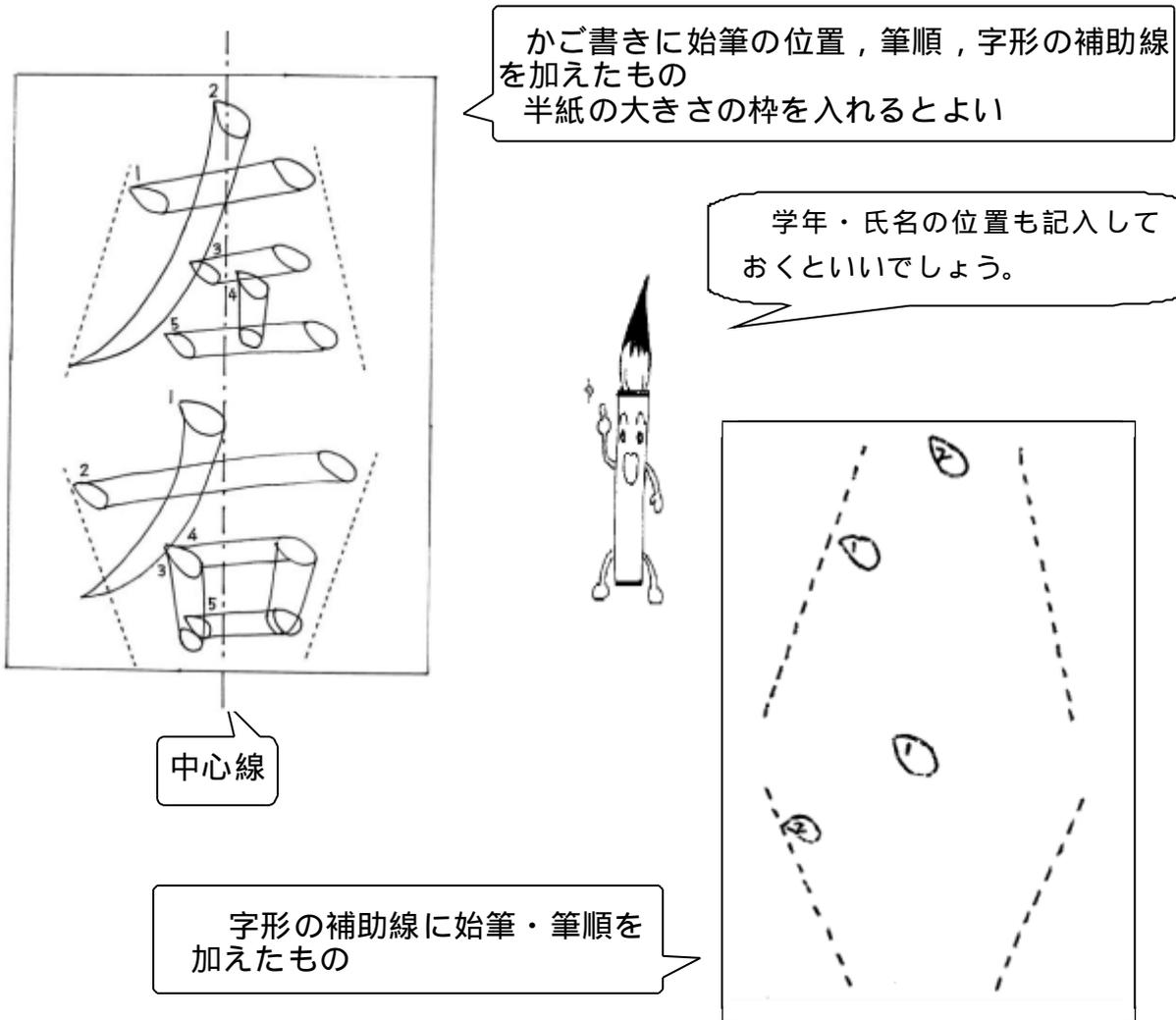
## 2 ねらいに応じた練習用紙の作成

- (1) ねらいが、用紙自体に示されるので、限られた時間に指導するのに有効的です。
- (2) さまざまな練習用紙を準備し、子どもに自分の課題にあったものを選ばせ活用させます。
- (3) 文字の部分練習用紙なども工夫してみるとよいです。
- (4) 共通課題は全員に、自己課題は個の実態に応じて作成するとよいです。
- (5) 組み合わせを工夫して段階的にガイドを減らしていく方向にしていくとよいです。

## 3 指導上の配慮事項

- (1) 複雑な用筆ではなく、素直な用筆で書けるように作成します。  
(硬筆・毛筆の関連指導より)
- (2) 補助線やかご字の通りに書くことに気をとられすぎると、単に毛筆で線を埋めていく作業になり筆順を取り違えたりすることがあるので注意が必要です。
- (3) 練習用紙を多数準備すれば、子どもの書写力が向上するものではありません。目的に応じて何をどのように使わせるか考慮していく必要があります。
- (4) B4は半紙よりやや大きいので、配置を学習させる練習用紙には半紙の枠を記入しておくるとよいです。
- (5) 教師が用意したものばかりでなく子ども自身に文字教材をみせて自分の練習用紙を作成させてみてください。書写の課題解決学習につながります。

(組み合わせで作った「左右」練習用紙の例)



# 行書の特徴

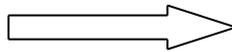
行書で書くと、文字を速く書くことができます。

## 1 『行書』の特徴

点画に丸みを帯びることがある。	丸み
点画の方向や形が変化することがある。	方向や形
点画が連続することがある。	連続
点画が省略されることがある。	省略
筆順が変わることがある。	筆順

楷書（数字は筆順）

行書



行書は中学校書写の中心  
となっています。

楷書と行書を比較すると、上のような違いがあることがわかります。  
筆順の変化、方向・形の変化、省略という特徴がありますね。



ここは「丸み」

ここは「連続」



「ころもへん」  
の行書



「しめすへん」  
の行書



省略のある  
「ごんべん」



省略なしの  
「ごんべん」

# 基本点画の書き方

行書の基本点画の書き方を押さえて、正しく書きましょう。

## 1 横画の書き方

始筆は楷書に比べてやや浅く、ゆるやかに加圧します。

終筆はやや軽く止め、次画へ向かってつながるように小さくはね出すことが多い。



始筆では長くとどめず、ゆったりと運筆します。

## 2 その他の基本点画

ゆるやかに加圧・減圧し、次画に向かって小さくはね出す。

転折はやや丸みを帯び、その前後も曲線化する。

右方向へ連続する左払い、楷書のように遠くに向かって払うのではなく、次画に向かって連続するようにはねる。

右払いは楷書のように鋭く払わず、緩やかにやや丸みが出るように軽く止めて、離す。



「はね」のつく縦画はやや曲線化して、次画の始筆に向かって、緩やかにねる。

行書らしく書くには、筆の穂先をなるべく立て、緩やかに筆圧を変化させ画と画を連続させて、ゆったりと書くことが大切だね。



## 点画の変化

行書では速く書くことによって、点画の長さや方向に変化が生じることがあります。

楷書に比べ、筆脈がもっとも重要になります。

### 1 終筆の変化

「左はらい」の終筆は軽く止めるか、小さな「はね」として次画へ連続するように書きます。

鋭く払わず、丸みをつけて軽く止めるような気持ちで書きます。



### 2 方向の変化

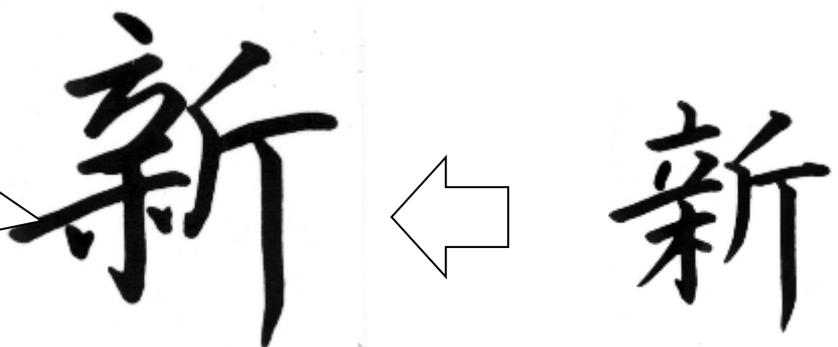
短い「左はらい」を横画にします。

終筆を軽くはね、次の文字の一画目に筆脈をつなげるように書きます。



### 3 横画の長さの変化

運筆につれて速度が増すのが自然なので、短い横画から長い横画へと連続します。



# 点画の連続

点画を連続して書くときには、筆脈を意識して書くことが大切です。

## 1 連続する点画の基本

「点画の連続」は中学校で学習する基礎的な行書の特徴の一つです。

点画の連続には、次のものがあります。

- (1) 筆脈の線が出るもの
- (2) 筆脈の線で連続するもの
- (3) 前画の終筆と次画の始筆とが直接連続するもの



縦画から右上はらいへの連続

点からの連続



折れ（縦画）から横画への連続

## 2 点画の連続のしかた

同一方向の点画が3つ以上並ぶ場合は書く速度が上がるため、2つ目と3つ目が連続することが多い。



このように、むやみに連続させると読みにくくなるので、注意しようね。

## 点画の省略

点画を連続させて速く書くことにより、小さい点画を省略したり、繁雑な部分を簡略にしたりします。

### 1 省略の起こり

「木」(きへん)の場合

木 → 木 → 才 → 才

「門」(もんがまえ)の場合

門 → 門 → 門 → 門

点画の省略は文字によって異なりますが、その基本を一つ一つ書いて覚えていきましょう。

点の省略

松 雲 初 熱

画の省略

読 答 起 緯

### 2 似ている省略の例

行 紅

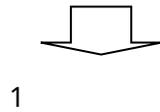
似てるけど2本の斜めの画の長さが違うよ。間違えると、違った字になってしまうんだね。



# 筆順の変化

文字を速く能率的に書くために、筆順を変化させて書くことがあります。

1 2 3  
花



1 2 3  
花



さらに連続させると点が省略されます。

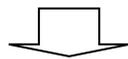
2 3 1  
納



1 2 3  
納

三つの点になります。

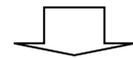
初



初

「しめすへん」と「ころもへん」は行書では同じ形になります。

神



神

## 第2学年 国語科書写学習指導案

### 1 単元名 文字の形 (東京書籍)

#### 2 単元の目標

- (1) 文字の形に注意して書こうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 自分の課題が分かり、課題に合わせて練習することができる。(思考・判断)
- (3) 文字の形に注意しながら丁寧に書くことができる。(技能・表現)
- (4) 文字の概形を理解することができる。(知識・理解)
- (5) 6つの観点の文字を使って、言葉を書くことができる。(書写の日常化)

#### 3 指導にあたって

1年時には、ほぼ正方形、縦長の長方形、横長の長方形の3種類の文字の形を学習している。

本単元では、1年生で学習した内容に加え、下が広がる形、上が広がる形、中が広がる形について学習する。概形は、既習した学習内容である「画の長さ」や「画の方向」に大きく左右される。たとえば、下の方に長い画や大きな「払い」があるときは、下が広がる形に整えて書くことが多い。

また、中ほどに長い画や大きな「払い」があるときは、中が広がる形に整えて書くことが多い。

さらに、正しい姿勢を確認するために望ましい書く姿勢のための唱え歌を活用したり、正しい鉛筆の持ち方を確認したりする。特に、正しい姿勢については、背筋を伸ばした状態で体を安定させたり、書く位置と目の距離を適度にとったり、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにしたりして書くことに留意させたい。また、正しい鉛筆の持ち方ができない児童には、補助具を活用したい。

第1学年及び第2学年の、「姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと」をねらいを受け、「画の長さ」や「画の方向」に着目することで、概形の違いに気づかせ、文字の形に注意しながら、丁寧に書くようにさせたい。

その際、文字の形はあくまでも目安であり、厳密なものではないので多少の個人差は認めるように留意したい。

#### 4 指導計画と評価規準 (総時数 2時間)

時	学習活動	評価規準				
		関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解	技能・表現	書写の日常化
本時1	文字の形を理解し、文字の形に注意して書く。 ・下が広がる形 ・上が広がる形 ・中が広がる形	文字の形に注意して書こうとしている。		文字の形を理解することができる。		
1	文字の形に注意して書く。 ・だいたい正方形 ・縦長の長方形 ・横長の長方形 ・下が広がる形 ・上が広がる形 ・中が広がる形		文字の形に注意し考えながら書いている。		文字の形に注意してていねいに書くことができる。	6つの観点の文字を使って、言葉を書くことができる。

#### 5 本時の目標

文字の概形を理解し、文字の形に注意して書こうとしている。

6 学習過程 (第 1 / 2 時間目)

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援	評価
つかむ・考える	<p>1 本時の学習課題を把握する。 (1) 本時の学習課題を把握する。</p> <p>(2) 「天・右・子」を試し書きする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>文字の形に気をつけて、ていねいに書こう。パート 1</p> </div>	5	<p>拡大文字「天、右、子」と3種類の色別概形シートを用意し、文字の形がどうなるのかについて考えさせ、本時は文字の形に気をつけて書くことを知らせる。</p> <p>体全体を使った空書を取り入れ、学習の動機づけをし、学習への意欲付けを図る。</p> <p>望ましい書く姿勢のため唱え歌を活用し姿勢を確認する。</p> <p>鉛筆の持ち方や姿勢等も確認する。特に、鉛筆の持ち方が悪い場合は、補助具を活用させる。また、姿勢については、背筋を伸ばして両足を床にしっかりつけることや自分のへそよりやや右寄りで書くこと等を確認する。</p>	
すすめる	<p>2 学習基準の確認と自分の課題を明確に持つ。</p> <p>(1) 学習基準の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下が広がる形 </li> <li>・上が広がる形 </li> <li>・中が広がる形 </li> </ul> <p>(2) 自分の課題を持つ。</p>	10	<p>文字の形は、既習した学習内容である「画の長さ」や「画の方向」に大きく左右されることに着目させる。たとえば、下の方に長い画や左右の払い、左払いと曲がりがある場合は、下が広がる形になることが多いことを意識して文字の形に注意して書くことができるようにさせる。</p> <p>文字の概形を意識させ、それぞれの文字を指書きさせる。</p> <p>学習基準から、自分の課題を決め、色別シートを貼ることで自己課題を意識して取り組むことができるようにさせる。また、そうすることで、教師が机間指導の際、個々の課題を把握しやすくする。</p> <p>自分の課題に沿って、1年、2年で今までに習った漢字一覧表から見つけさせる。その際、特に、横画の長さや、左右の払いの文字に目を向けさせ、文字の形に注意して見つけさせるようにする。</p>	
	<p>3 自分の課題に沿った文字集めと発表をする。</p> <p>(1) 自分の課題の沿って文字集めをする。</p> <p>下が広がる文字 火・止・元・土・生・正・見 など</p> <p>上が広がる文字 言・百・首・書 など</p> <p>中が広がる文字 食・金・手・青・赤・千・音・毎 など</p> <p>(2) 自分で見つけた文字を発表する。 見つけた文字をカードに書き、黒板にはる。 仲間分けをする。</p>	25 (10) (15)	<p>机間指導の中で、なかなか見つけられないでいる児童には、教師側からいくつかの文字を提示する。</p> <p>机間指導の中で共通する問題点は、全体指導で随時取り上げて指導する。また、個別指導をできるだけ多く取り入れるようにする。</p> <p>文字集めだけに意識がいかないように、始筆から送筆、終筆(とめ、はね、はらい)まで確実に書き、画の長短や方向等に注意してていねいに書くことができるように、個別にできるだけ声かけをするように心がける。</p> <p>フェルトペンで事前に配付したカードに書かせ、黒板に貼らせる。</p> <p>文字の形を理解し、文字の形に注意して書こうとしているか。(観察・プリント)</p>	

確かめる	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 「火・右・子」のまとめ書きをする。</p> <p>(2) 本時の学習の自己評価と感想・反省を書く。</p>	5	<p>本時の学習の自己評価や感想・反省をし、学習の成果を実感させる。今後、文字の形に注意して、意識して書くように支援する。</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------	---	-------------------------------------------------------------------

(第2/2時間目)

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援 評価
つかむ・考える	<p>1 本時の学習課題を把握する。</p> <p>(1) 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>文字の形に気をつけて、ていねいに書こう。パート2</p> </div>	5	<p>1年時及び前時の学習を振り返り、6種類の色別概形シートを提示し、文字の形に注意して丁寧に書くことを知らせる。</p> <p>体全体を使った空書を取り入れ、学習の動機づけをし、学習への意欲付けを図る。</p> <p>望ましい書く姿勢のため唱え歌を活用し姿勢を確認する。</p> <p>鉛筆の持ち方や姿勢等も確認する。特に、鉛筆の持ち方が悪い場合は、補助具を活用させる。また、姿勢については、背筋を伸ばして両足を床にしっかりつけることや自分のへそよりやや右寄りで書くこと等を確認する。</p>
すすめる	<p>2 学習基準の確認と整理をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほぼ正方形  虫, 行</li> <li>・ 縦長の長方形  貝, 多</li> <li>・ 横長の長方形  四, 心</li> <li>・ 下が広がる形  左, 元</li> <li>・ 上が広がる形  百, 書</li> <li>・ 中が広がる形  手, 毎</li> </ul> <p>3 文字の形に注意して練習とまとめをする。</p> <p>(1) 練習と自己診断をする。</p> <p>(2) まとめ書きをする。</p> <p>(3) 6つの観点の文字を使って言葉を書く。</p>	<p>15</p> <p>20</p> <p>(15)</p> <p>(5)</p>	<p>縦長や横長の長方形になる文字をほぼ正方形に書いた漢字を提示し、教科書21ページに書かれた文字と見比べながら、概形に対する児童の意識が高められるようにする。</p> <p>教科書の文字を指書きやなぞり書きさせる活動を十分に取り入れることにより、実際に自分で書く時に文字の形に注意して丁寧に書くことができるようにさせたい。</p> <p>教科書21ページを活用し、文字の概形を考えさせ、同じ形になる文字同士を線で結ばせ、教科書35、36ページを見て答え合わせをさせる。</p> <p>文字の概形を示し、その中に漢字を書き込ませる練習用紙を準備する。ただ、無理に外形に当てはめて書く学習にならないように留意する。また、書いた文字を自己診断しながら進められるように概形を示した透明シートを準備する。</p> <p>文字の形に注意して、丁寧に書いているか。 (観察・プリント)</p>
確かめる	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 自己評価と文字の形の学習で分かったことや感想を書く。</p>	5	<p>文字の形に注意して書くことは、既習事項である「画に長さ」や「画の方向」、「文字の中心」等に注意して丁寧に書くことであることを分からせたい。</p>



文字の概形批正シート

氏名( ) 年 番

たのし書き まどめ書き

たのし書き まどめ書き

たのし書き まどめ書き

反省 ③ ○ △

心	四	多	貝	行	虫
心	四	多	貝	行	虫

年 組 番 ( )

毎	手	書	百	元	左
毎	手	書	百	元	左

はんせい

学習プリント

## 第3学年 国語科書写学習指導案

### 1 単元名 「曲がり」と「おれ」の筆使いを知ろう 「ビル」(光村図書)

### 2 単元の目標

- (1) 自分の課題を解決するため、進んで練習しようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 自分の課題を見つけ、解決方法を選ぶことができる。 (思考・判断)
- (3) 「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて書くことができる。 (技能・表現)
- (4) 「曲がり」と「おれ」の筆使いを正しく理解することができる。 (知識・理解)
- (5) つねに「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて書こうとする意識を持つことができる。 (書写の日常化)

### 3 単元にあたって

本単元では、「ビル」で「曲がり」と「おれ」の基本的な筆使いの違いについて学習する。大筆を使った学習で確認した後、硬筆で他の文字を書くことで、学習の定着を図っていく。児童は、3年生で毛筆学習が始まりこれまでに毛筆で横画、縦画、折れ、はね、左右の払い、点などの点画の学習に取り組んできており、これらの学習を硬筆に生かそうとしている。中学年では、「点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと」を挙げている。筆圧とは、筆記具から用紙に加わる力のことである。そこで、点画の種類を理解させることと同時に、点画の筆使いと筆圧を関連づけながら指導していくことが大切である。

### 4 指導計画と評価規準 (総時数 3時間)

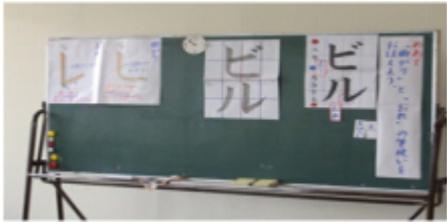
時数	学習活動	評価規準				
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	日常化
1 毛	「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解する。	「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを見つけようとしている。			「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解することができる。	
2 毛	「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて「ビル」を書く。	「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて練習している。		「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて「ビル」を書くことができる。		
3 硬	硬筆を用いて「曲がり」と「おれ」のある文字を書く。		硬筆でも「曲がり」と「おれ」の基準が応用できるか調べることができる。		硬筆でも「曲がり」と「おれ」の基準にそって書くことができる。	つねに「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて書く。

### 5 本時の目標

「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解して書くことができる。

## 6 学習過程(第1 / 3時間目)

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援 評価								
つかむ・考える	<p>1 学習のめあてをつかむ。 (1)「<b>曲がり</b>」と「<b>おれ</b>」の点画を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「曲がり」と「おれ」の筆使いをおぼえよう。</p> </div>	5	<p>前時までの復習として「<b>ビル</b>」の点画である横書, 払い, 点を想起させる。 「<b>ビル</b>」の課題を提示し, 「<b>まがり</b>」と「<b>おれ</b>」の点画の種類を理解させ, 筆使いに気をつけて書くことがめあてであることをおさえる。</p> 								
すすめる	<p>2 試し書きする。 3 「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを話し合う。 (1)「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを考える。 (2)示範(DVD)を見て, 筆使いを知る。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「<b>曲がり</b>」 筆の速さを少しゆるめ, <u>止めない</u>でゆっくり曲げる。 「<b>おれ</b>」 筆を一度<u>止めて</u>から, 方向を変える。</p> </div> <p>4 「曲がり」の筆使いの練習をする。 5 「おれ」の筆使いの練習をする。 ・月の「おれ」を想起する。</p>	4 10 (5) (5)	<p>机間巡視し, 実態を把握する。</p> <p style="text-align: center;">筆使いの比較</p> <table border="1" style="border-style: dashed; border-color: black; width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">曲がり</th> <th style="width: 50%;">おれ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>止まらない</td> <td>止まる</td> </tr> <tr> <td>速さを弱める</td> <td>かえない</td> </tr> <tr> <td>まるい</td> <td>角張る</td> </tr> </tbody> </table> <p>「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを見つけようとしているか。(発表) <b>曲がり</b>は, 筆の軸を回さず, <b>穂先が移動することをおさえる</b>。 空書きをして基準を確かめる。 <b>指サック</b>を穂先に見立て, <b>穂先が移動することをおさえる</b>。</p>	曲がり	おれ	止まらない	止まる	速さを弱める	かえない	まるい	角張る
曲がり	おれ										
止まらない	止まる										
速さを弱める	かえない										
まるい	角張る										
	  	8 8 3	 <p>「<b>レ</b>」は, 止まってから, 筆圧を弱めながら払うことをおさえる。その筆圧を5, 4, 3, 2, 1と数値で意識させる。 おれは, 縦画と右上払いの重なりであることを毛筆で分らせる。 「<b>ビ</b>」の筆順を確かめる。 基準を意識させ, 「<b>ビル</b>」を書かせる。</p>								

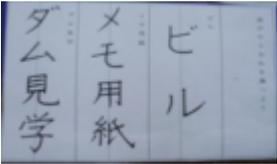
	6 「ビル」のまとめ書きをする。			
た し か め る	7 自己評価し,自分の課題を決める。	5		筆使いができているか自己評価させる。 「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書いているか。
	8 本時のまとめをする。	2		(観察・まとめ書き) 自分の課題を見つけ,書写カードに記入させ,次時に取り組むよう意欲付けする。 

**(第2 / 3 時間目)**

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援	評価
つ か む ・ 考 え る	1 前時の学習を振り返り,自分の課題を明らかにする。  「曲がり」と「おれ」の筆使いと自分の課題に気をつけて書こう。	5		各自前時のまとめ書き作品と書写カードを見て,本時取り組む課題を明確にする。 ・中心をそろえる ・正しい筆使い ・文字の大きさ等 ・「曲がり」と「おれ」の筆使い
す ず め る	2 「曲がり」と「おれ」の基準と自己課題を意識して,練習する。	12		自己課題にあった練習用紙を選んで練習できるようにする。 「曲がり」と「おれ」の筆使いと自分の課題に気をつけて練習しているか。(観察・練習している文字) 大筆や鉛筆との違いを確かめる。
	3 小筆の使い方を知る。 ・鉛筆の持ち方との違いを確かめて,名前の練習をする。	10		小筆は鉛筆よりも立てて持ち,右手は机にのせて書くようにする。 文字の大きさや位置についても確認する。
	4 まとめ書きをする。 ・16等分の半紙で一斉書きをする。 ・小筆で名前も書く。	10		基準を意識させるためと全体の仕上がりを考えて一斉書きをする。
た し か	5 試し書きと比較して,自己評価・相互評価を行う。	5		自己評価は書写カードに記入させ,相互評価は隣の児童と見合い,良くなったところを認め合うようにする。

める	6 本時のまとめと次時の予告をする。	3	「曲がり」と「おれ」の筆使いと自分の課題に気をつけて書いているか。 (観察・まとめ書き) 努力を要する点は今後の課題とする。 次時は、硬筆を用いての「曲がり」と「おれ」の学習をすることを予告する。
----	--------------------	---	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**(第3 / 3時間目)**

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援 評価
つかむ・考える	1 前時までの学習を振り返り、学習のめあてを知る。  硬筆の「曲がり」と「おれ」をしらべよう。	5	前時までの学習で毛筆での「曲がり」と「おれ」の筆使いが硬筆でも応用できるか調べようと投げかけ、興味関心を持たせる。
すすめる	2 硬筆で書いて、調べる。 ・ビル・メモ用紙・ダム見学 	15	どの部分が「曲がり」と「おれ」が確認する。 「ビル」の曲がりと折れの筆使いは他の文字の曲がりと折れにも共通することが分かったので、「きまり」としておさえる。
ひろげる	3 片仮名や漢字の中から「曲がり」と「おれ」のある字を見つける。	10	見つけられない児童には、巻末の「三年生の漢字」から探させ、正しい書き方で書くようにさせる。(活用)
活用	4 漢字と片仮名の関わりを調べる。	10	硬筆で「曲がり」と「おれ」に気をつけて書いているか。 (観察・プリント) 片仮名の字源を調べて、書くようにする。 片仮名は、漢字の一部を元にして作られたものが多いことを教科書 P23 を参照しながら理解させる。
たしかめる	5 まとめをする。 ・自己評価する。 	5	書写カードに硬筆の「曲がり」と「おれ」について自己評価する。  硬筆でも毛筆でも「曲がり」と「おれ」の書き方が正しいと美しい文字になることをおさえる。 台紙に書写カードや作品を貼り、学習の足跡とする。

## 第 6 学年国語科書写学習指導案

**1 単元名** 文字の大きさ（字配り） 「白い雲」（東京書籍）

### 2 単元の目標

- （ 1 ）文字の大きさや行の中心に注意して書こうとする。（関心・意欲・態度）
- （ 2 ）用紙全体との関係に注意して，字配りを決めることができる。（思考・判断）
- （ 3 ）既習事項に注意して，字配りを整えて書くことができる。（技能・表現）
- （ 4 ）かなや画数の少ない漢字は小さめに書くことを理解することができる。（知識・理解）
- （ 5 ）学習したことを，学校生活や学習活動に役立てることができる。（書写の日常化）

### 3 指導にあたって

5 学年時と本単元の違いは，半紙 4 文字の字配りが半紙縦半分に 3 文字になっていることである。また，漢字とかなの大きさの関係に加えて，漢字どうしても大きさの違いがあるのを学習することである。

文字の大きさや字配りに関しては，5 学年の第 5 単元「漢字とかなの大きさ（字配り）『花さく町』」の学習で，字配りを「行の中心」「文字の大きさ」「字間」「行間」「上下左右の余白」であると学習している。

新学習指導要領の 5・6 学年の書写に関する事項で新しくなった内容については単元全体をとおして扱うが，2 時目では「書く速さを意識して書くこと」「穂先のつながりを意識して書くこと」，3 時目では「用紙全体との関係に注意し，文字の大きさや配列などを決める」ことや「目的に応じて使用する筆記具を選び，その特徴を生かして書くこと」について重点をおきたい。そして，3 時目では，「実際の日常生活や学習活動に役立つ」場面を意識した学習活動をさせたい。

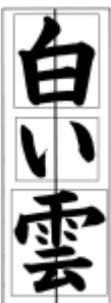
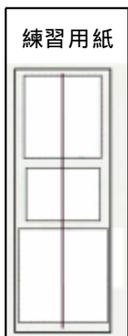
### 4 指導計画と評価規準（総時数 3 時間）

時	目 標	評価規準				
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	書写の日常化
1	「白い雲」をとおして，文字の大きさのポイント，行の中心・文字の中心について理解する。	それぞれの文字の大きさや，文字や行の中心に注意して書こうとしている。			かなや画数の少ない漢字は小さめに書くことを理解することができる。 行・文字の中心について理解することができる。	
2	文字の大きさ，行の中心・文字の中心，既習事項に注意して字配りを整えて書くことができる。		自分なりの課題を持って書こうとしている。	既習事項に注意して，字配りを整えて書くことができる。		毛筆で学んだことを，硬筆で書くときに生かすことができる。
3	筆記具や用紙を選び，字配りに注意して掲示物を書くことができる。		用紙全体との関係に注意して，字配りを決めることができる。	筆記具や用紙を選び，字配りに注意して，掲示物を書くことができる。		掲示する場所，見る人を意識して書くことができる。

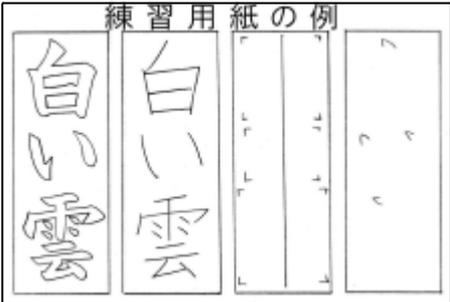
### 5 本時の目標

文字の大きさや行の中心に注意して字配りよく文字を書くことができる。

6 学習過程（第1/3時間目）

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援 評価
つかむ・考える	<p>1 「白い雲」を通して、「文字の大きさ」について学習することを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆で「白い雲」を書く。</li> <li>「あめかんむり」の書き方を確かめ、毛筆で「白い雲」を書く。</li> </ul> <p><u>文字の大きさに注意して書こう</u></p>	5	<p>毛筆に墨をつけておく、半紙を1枚出しておくなど、すぐに書けるよう準備させる。教科書に鉛筆で書き込みをさせる。筆順や点画、穂先の通り道について教科書を見て範書や空書きで確かめる。半紙を縦2つに折って書かせる。</p>
すすめる	<p>2 「白い雲」を書くときの基準を理解する。</p> <p>(1) 3種類の「白い雲」を見比べて、文字の大きさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かなは漢字より小さめに書く。</li> <li>画数が少ない漢字は、小さめに書く。</li> </ul>  <p>(2) 「白」「い」「雲」の文字の中心について話し合う。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>文字の中心に注意して「白」「い」「雲」の文字カードを台紙に張る。</li> <li>教科書 P19 と比べる。</li> </ul> <p>3 文字の大きさ・行の中心に注意して練習する。</p>	<p>10 (5)</p> <p>(5)</p> <p>15</p>	<p>基準である「白い雲」と、白が大きい例、白いが大きい例を提示する。(右図) 児童の発言をもとに、または、教科書を手がかりにして基準を明らかにする。かなや、画数の少ない漢字は小さめに書くことを理解しているか。</p> <p>(観察・発表)</p> <p>代表児童に、黒板上で操作させる。P19 と比べて中心線が文字のどこを通っているか理解させる。行・文字の中心について理解しているか。(発表・板書)</p>  <p>右のような練習用紙を用意する。また、練習用紙の作り方を説明し、自分の練習用紙で取り組んでもよいものとする。</p>
確かめる	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) まとめ書きをして、自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「い」は漢字より小さめに書けたか。</li> <li>「白」は「雲」より小さめに書けたか。</li> <li>行の中心は通っているか。</li> </ul> <p>(2) 良くなったこと、もっと頑張りたいことを考えて、次時は練習を深めていくことを知る。</p>	<p>15 (10)</p> <p>(5)</p>	<p>練習用紙のような、四角や中心線を書きこませ、より視覚的に明らかにさせる。</p> <p>ここでのまとめ書きを次時に使うことを知らせる。</p>

(第2/3時間目)

段階	学習活動・内容	時間(分)	教師の支援 評価
つかむ・考える	<p>1 前時をふり返り，課題を把握する。            (1)「字配り」について復習する。            行の中心 文字の大きさ 字間            行間 上下左右の余白  <u>字配りに注意して書こう</u></p> <p>(2) 前時に書いた「白い雲」を見て，自分なりの課題を持つ。</p>	5	<p>用語「字配り」を既習事項としてふり返る。「配列」ともいうことについて触れる。</p> <p>字配りのほか，筆使い・字形などについて，前時のまとめ書きに書き込みをすることにより個別課題を持たせる。            自分なりの課題を持っているか。            (観察・前時のまとめ書きへの書き込み)</p>
すすめる	<p>2 練習用紙を選んだり作ったりして「白い雲」を練習する。</p>  <p>3 まとめ書きをする。            (1) 毛筆でまとめ書きする。            (2) 硬筆でまとめ書きする。</p>	20 10	<p>「い」「雲」の書き方を確認し，点画のつながりを意識させる。            かご書き・ほね書きなども含め，既習を生かした練習用紙で練習させる。(左図)            既習事項に注意して，字配りを整えて書いているか。(観察)</p> <p>毛筆のまとめ書きでは，隣の席の児童と交代で書かせ，穂先の動きと点画のつながり，書く速さに着目させる。            硬筆では，教科書を利用してまとめ書きさせる。</p>
確かめる	<p>4 前時に書いた試し書きと，本時のまとめ書きを比べて，良くなったところを見つける。</p> <p>5 ここまでの学習を生かして，違う言葉を硬筆で書き，次時の学習について知る。</p>	5 5	<p>単元の目標・個別の課題の両面で良くなったところを自己評価や相互評価で見つけさせる。</p> <p>P19「旅の日記」「美しい月」を書かせ，次時の学習について知らせる。</p>

〈字配り・配列について〉

東書・5年書写の教科書P18「こう筆では，配列というよ。」とあるように，「字配り」と「配列」を使い分けています。しかし，新学習指導要領では「配列」だけとなり，「字配り」はその中に吸収された形になっています。この指導案では，既習事項との関連を考慮して，教科書のとおり「字配り」の用語を使用します。

(第3/3時間目)

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援 評価
つかむ ・考 え る	<p>1 前時までをふり返し、本時の学習を知る。</p> <p>(1) 文字の大きさのポイントを確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなは漢字より小さめに書く。</li> <li>・画数が少ない漢字は、小さめに書く。</li> <li>・文字・行の中心に注意する。</li> </ul> <p>(2) 字配りに注意して、「白い雲」の他の言葉を、半紙以外の用紙に書くことを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>いろいろな掲示物を字配りに注意して書こう</p> </div>	5	<p>「字配り」について確認する。「配列」について触れておく。</p> <p>学校生活をふり返し、字配りに気をつけて書く場面がたくさんあることに気づかせることで本時のめあてをつかませたい。</p>
すすめる	<p>2 言葉集めをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理整とん</li> <li>・右側を歩こう</li> <li>・思い出</li> <li>・今週の目あて</li> <li>・手を洗おう</li> <li>・入学(卒業)おめでとう</li> <li>・明るい子</li> <li>・学級だより</li> <li>・たなばた集会</li> <li>・こん立て表</li> <li>・今月の予定</li> <li>・そうじ用具入れ</li> <li>・本を読もう</li> <li>など</li> </ul> <p>3 言葉や用紙を選んで、毛筆や硬筆で書く。</p> 	10  20	<p>委員会がつくるポスターや掲示物、学校の内外にある張り紙や表示などを思い出させる。それらのうち、漢字かな交じりの言葉に絞って書くことにする。漢字だけのものは、次の単元で扱うことを知らせる。児童から出ない場合は、教師から提示する。</p> <p>用紙は画用紙・色画用紙・模造紙・障子紙・ボール紙を、筆記具は各自の毛筆を含めて筆ペン・極太マジック・ネームペン・マジックセット・絵の具セットなどを用意する。目的に合わせて用紙を切って良いものとする。</p> <p>字配りを決めるために、鉛筆で印をつけたり下書きをしてもよいこととする。</p> <p>用紙全体との関係に注意して、字配りを決めているか。(観察)</p>
確かめる	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 掲示したものを見て相互評価する。</p> <p>(2) 単元の学習をふり返る。</p>	10	<p>文字の大きさ・行の中心に絞って評価させる。</p> <p>筆記具や用紙を選び、字配りに注意して掲示物を書いているか。(掲示物)</p> <p>教科書P19の「学習をふり返ろう」を使って自己評価させる。</p>

第2学年国語科書写学習指導案（中学校）

1 単元名 行書の特徴を生かして書こう 「読書」（光村図書）

2 単元の目標

- (1) 自己の課題を解決するために、行書の特徴（点画の丸み・方向や形の変化・連続・省略・筆順の変化）を理解して進んで練習しようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 自己課題を見つけ、解決方法を選ぶことができる。【思考・判断】
- (3) 行書の筆順を確認して書くことができる。【技能・表現】
- (4) 行書の部分の形を正しく理解し、部分を含む文字を応用して書くことができる。【知識・理解】
- (5) 行書の特徴を理解して、硬筆や毛筆で書くことで教材以外の文字にも応用しようとする意識を持つことができる。【書写の日常化】

3 指導にあたって

文字は記号として相手に正確に読ませることが第一義であり、正しく読みやすい文字を書くことのできる能力を身に付けさせることが書写の目標である。そこで「行書」の学習を通して字形や文字の大きさ、配列・配置などに着目させ、行書の5つの特徴である『点画の丸み』『方向や形の変化』『連続』『省略』『筆順の変化』を理解させたい。本単元のねらいは行書の『点画の丸み』『省略』『方向や形の変化』『筆順の変化』を確かめながら書くことである。**行書学習は「伝統的な文字文化として理解して書くこと、をねらいとしている。**そこで、この行書の学習を通して「読解力」育成の一つである『目的に応じて理解し、解釈する能力』を身に付けさせ、日常生活に活用できる力を養わせたい。

4 指導計画と評価規準

(1) 大単元の指導計画(総時数 11時間)

- 行書の特徴を理解して書く。 2時間
- 行書の5つの特徴『点画の丸み』『方向や形の変化』『連続』『省略』『筆順の変化』を踏まえた部分練習。(毛筆・硬筆)
- 行書の点画の丸み・連続・省略を理解して書く。 2時間
- 教材文字：「雷鳴」(毛筆)「河川」「祝電」「馬術」フェルトペン(硬筆)
- 行書の点画の省略・方向や形の変化・筆順の変化を理解して書く。 3時間 (本時2/3)**
- 教材文字：「読書」(毛筆)「読書」「敬語」「紅茶」「草」「舞」「我」「雑」(硬筆)**
- 行書の特徴の理解を深めて書く。 2時間
- 教材文字「情趣」(毛筆)
- 行書の特徴を思い出して書く。 2時間
- 自分の氏名に使われている漢字や身の回りの漢字を行書で書く。(硬筆)(毛筆)

(2) 小単元の指導計画と評価規準(3時間)

時	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	知識・理解	技能	日常化
1	行書の5つの特徴を踏まえて硬筆で書く。	行書の特徴を理解しようとしている。		行書の特徴を理解して、練習シートに「読書」「敬語」「紅茶」「草」「舞」「我」「雑」を鉛筆、フェ	

				ルトペンで書いている。	
2	行書の点画の丸み・省略・方向の変化や形の変化・筆順の変化を理解して「読書」を毛筆で書く。	行書の特徴を理解しようと意欲的に取り組んでいる。	行書の部分の形を理解し、応用することができる。	行書の点画の丸み・省略・方向や形の変化・筆順の変化を理解して「読書」を書いている。	行書の特徴を理解して、日常生活に生かして書くことができる。
3	行書の特徴を思い出して、「読書」以外の文字を書く。		楷書と行書の違いを理解して行書の特徴を生かして書くことができる。		硬筆や毛筆の特徴を生かして、教材文以外の文字に応用している。

## 5 本時の目標

行書の『点画の丸み・省略・方向や形の変化・筆順の変化』を理解して書くことができる。

## 6 学習過程（第1 / 3時間目）

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援	評価
つか考 か考 むえ る	1 本時の学習課題を把握する。  行書の特徴を理解して硬筆で書いてみよう。	5	行書の特徴を生かして鉛筆，フェルトペン，筆ペンなどを使うことを指示する。	
す す め る	2 硬筆練習シートに書き込む。 「読書」「敬語」「紅茶」「草」「舞」「我」「雑」を行書で書く。 ・ 点画の省略  <b>紅 読</b>  鉛筆の正しい持ち方を再確認する。 ・ 筆順の変化 <b>書 草 茶 舞</b>  ・ 方向や形の変化 <b>雑 我</b>	40	教師の作成した硬筆練習シートに鉛筆，フェルトペン，筆ペンを使って書き込ませる。 行書の特徴をシートに書き込ませ、その上で『点画の省略』『筆順の変化』『点画の方向や形の変化』などを再確認させる。 教科書に写真が載っているのを確認させる。（次時には小筆を使って氏名の練習をすることを伝え、小筆と鉛筆の持ち方が同じであることに気づかせる。）  鉛筆，小筆を正しく持って書いているか。（観察・プリント）	
確か める	3 次時の学習課題を知る。	5	次時は行書の特徴を理解して「読書」を毛筆で書くことを知らせる。	

(第2 / 3時間目)

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援 評価
つかむ・考える	1 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">             行書の特徴を理解して毛筆で書いてみよう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行書の5つの特徴を確認する。</li> <li>ア 点画の丸み</li> <li>イ 方向や形の変化      ウ 連続</li> <li>エ 省略                      オ 筆順の変化</li> </ul>	5	行書の5つの特徴のうち、『点画の丸み・省略・方向や形の変化・筆順の変化』が使われていることに気づかせる。
すすめる	2 「読書」を行書で書く。  (1) 練習用紙を使い、行書の筆づかいを知る。  (2) 試し書きをする。 ・ 自分の書いた試し書きを教科書または拡大教材文字を見ながら赤ペンでチェック(批正)する。 点画の丸み 省略 方向や形の変化 筆順の変化  (3) 再練習する。  (4) 氏名の練習をする。 ・ 小筆の持ち方を確認する。  (5) まとめ書きをする。 ・ 本時の学習内容(行書の特徴や行書の筆づかいをふり返り、まとめ書きをする。	3 5  (10)  (10)  (10)  (5)	行書の特徴を理解させ、行書の筆づかいを体得させる。  教師が作成した練習用紙を使い、行書の筆づかいを理解させる。 行書の『書』の画目の「折れ」はひらがなの「つ」を書くようにするとよい。  教科書または拡大教材文字を使用させ、半紙に試し書きをさせる。  教科書または拡大教材文字を見ながら、行書の特徴(点画の丸み・省略・方向や形の変化・筆順の変化)を意識づけさせるため、赤ペンで印(・・×)を記入させる。  批正(チェック)したものを参考に再練習させる。  行書の筆づかいや行書の特徴が理解できるように、机間指導や水書板への範書などで支援する。  小筆を使用して自分の氏名を行書で書けるよう練習させる。 正しい小筆の持ち方を教師が示範する。  行書の特徴(点画の丸み・連続・省略・方向や形の変化・筆順の変化)を理解して書いているか。 (観察・まとめ書き)
広げる	3 次時の学習課題を知る。	10	次時は文字の秘密を探る学習をすることを知らせる。

**(第3 / 3時間目)**

段階	学習活動・内容	時間 (分)	教師の支援	評価
つか か考 むえ る	1 本時の学習課題を把握する。  行書の特徴を思い出して、「読書」以外の文字を書いてみよう。	5	行書の5つの特徴を再確認させ、楷書と行書の違いを理解させる。 (方向や形, 筆順など)	
す す め る	2 楷書と行書の違いを理解して、行書の特徴を生かして書く。 ・「開拓者」「記念樹」「視聴覚」「初志貫徹」「天衣無縫」「森羅万象」を鉛筆、フェルトペン、筆ペンで書く。  3 上の文字を毛筆で書く。	40	前時までの学習を踏まえ、三文字、四文字の漢字を行書で書かせる。その際、楷書と行書の違い(方向や形, 筆順の変化, 省略など)に着目させる。 楷書と行書の違いを理解しているか。 (観察・プリント) 硬筆と毛筆のそれぞれの特徴や違いを理解させる。	
確か める	4 次時の学習課題を知る。	5	次時は「情趣」を毛筆で書くことを知らせる。	



《参考資料》

(1) 新学習指導要領における中学校書写の配当時数

【第1学年】…国語科全体の授業時数(140時間)に対して年間20単位時間程度

【第2学年】…国語科全体の授業時数(140時間)に対して年間20単位時間程度

【第3学年】…国語科全体の授業時数(105時間)に対して年間10単位時間程度

(2) 中学校書写の学習内容

楷書と仮名…小学校で学習してきたものをさらに深める。

行書…中学校で初めて学習する。

速く書くのに適している = 日常生活に役立つ。

**中学校書写の中心**

(3) 行書学習の目標と位置づ

【第1学年】…「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと」

【第2学年】…「目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書くこと」

【第3学年】…「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと」

**言語事項(3) 書写に関する事項から伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項から(2) 書写に関する事項に変わった。**

監修者 宮澤 正明

山梨大学教育人間科学部教授，大東文化大学講師。静岡県生まれ。

全日本書写書道教育研究会常任理事（研究局長）

全国大学書写書道教育学会 理事長

著書に「書写なんでも百科3・4巻」（岩崎書店），「毛筆書写墨場必携」（日本習字普及協会）など多数。

#### 編集者

渡辺 金作（福島県書写書道教育研究会長，南相馬市立小高小学校長）

本間 貞二（福島県書写書道教育研究会副会長，国見町立小坂小学校長）

渡邊 晋一（福島県書写書道教育研究会副会長，郡山市立御代田小学校長）

渡辺 光太郎（福島県書写書道教育研究会副会長，二本松市立杉田小学校教頭）

庄司 久子（福島県書写書道教育研究会理事長，いわき市立藤原小学校長）

清野 喜代志（福島県書写書道教育研究会研究局長，福島市立福島第一小学校教諭）

安齋 幸男（福島県書写書道教育研究会研究局次長，郡山市立日和田小学校教諭）

長谷部のぞみ（福島県書写書道教育研究会研究局次長，伊達市立梁川中学校教諭）

太田 文枝（福島県書写書道教育研究会連絡局次長，田村市立船引南小学校長）

佐藤 吉則（前福島県書写書道教育研究会長，福島市立庭塚小学校長）

#### 執筆者

佐藤 美江子（矢祭町立石井小学校教頭）

佐藤 英子（福島市立大森小学校教諭）

吉津 浩典（福島市立北沢又小学校教諭）

五十嵐 隆之（福島市立湯野小学校教諭）

菱沼 淑恵（福島市立福島養護学校教諭）

吉田 賢吾（川俣町立川俣小学校教諭）

齋藤 みちる（大玉村立玉井小学校教諭）

樽井 晃（郡山市立緑ヶ丘第一小学校教諭）

阿久津 文浩（会津若松市立城西小学校教諭）

兼松 満朗（会津若松市立第四中学校教諭）

木野 秀樹（三島町立三島中学校教諭）

#### イラスト（キャラクターデザイン）

鈴木 洋子（いわき市立藤原幼稚園講師）

## 参考文献

小学校学習指導要領	文部科学省
中学校学習指導要領	文部科学省
小学校学習指導要領解説 国語編	文部科学省
中学校学習指導要領解説 国語編	文部科学省
国語科のキーワード「硬筆・毛筆の関連を図る書写指導」	明治図書
明解書写教育（全国大学書写書道教育学会編）	萱原書房
小学校国語教育相談室（宮澤正明著）	光村図書出版
福島県書写書道教育研究会年報	

## あとがき

平成22年、福島県書写書道教育研究会は、みなさまのご支援・ご協力のおかげで創立60年を迎えました。それを記念し、本会の書写教育に関する研究のまとめとして、本誌『分かる できる「これからの書写指導」』を刊行いたしました。多くの先生方に日常の書写の指導に少しでも役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、監修の宮澤正明先生には、非常にお忙しい中にもかかわらず本誌の理念からご指導いただき、まことにありがとうございました。心より感謝いたします。